

VDC Viewer

操作マニュアル

マニュアルはよく読み、大切に保管してください。
製品を使用する前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。
このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

-目次-

1 はじめに	1
2 VDC Viewerご利用前の準備	2
2-1 ConsoleDA UIの設定.....	2
2-2 VDC設定ツールによる設定.....	3
2-2-1 VDC設定ツールの起動.....	3
2-2-2 各部の説明.....	3
2-2-3 接続先設定.....	5
2-2-4 設置場所設定.....	6
2-2-5 ラック設定.....	10
2-2-6 シャーシ設定.....	14
2-2-7 ブレード設定.....	17
3 VDC Viewerの操作方法	20
3-1 全画面共通の基本操作.....	20
3-2 各階層画面.....	22
3-2-1 Top画面.....	22
3-2-2 設置場所画面.....	23
3-2-3 ラック画面.....	24
3-2-4 シャーシ画面.....	25
3-3 クラムトレイル.....	27
3-4 アラート情報.....	28
3-5 ブレード稼働状況グラフ, ブレード使用状況グラフ.....	29
3-6 ブレードの情報.....	30
3-6-1 クライアントブレードの情報.....	30
3-6-2 サーバブレードの情報.....	32
3-7 状態通知レポート.....	36
3-8 ブレードの利用履歴表示.....	37
3-8-1 ブレードの接続履歴.....	37
3-8-2 ブレードの稼働履歴.....	39
3-8-3 ユーザーの接続履歴.....	41
3-8-4 履歴データのエクスポート.....	43
3-9 電源制御.....	45
3-10 CALLランプ制御.....	47
4 VDC Viewerの環境設定	48
4-1 接続先の切り替え.....	48
4-2 オプション.....	49
5 困ったときは	51
6 制限事項	54
7 付録	55

重要なお知らせ(注意事項)

- 本書をよくお読みになってから、製品をご使用ください。
- 本書の内容は、将来予告なしに変更される場合があります。
- 本書の内容の一部、または全てを無断で転載することを禁止します。

Copyright © Hitachi, Ltd. 2010 all rights reserved.

他社製品の登録商標および商標についてのお知らせ

- Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、SQL Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windows®の正式名称は、Microsoft® Windows® Operating System です。
- Citrix、XenDesktop は Citrix Systems, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。
- ActiveReports for .NET 3.0J
Copyright (C) 2007-2008 DataDynamics, Ltd.
- その他、会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

1 はじめに

VDC Viewer は、設置場所、ラックおよびシャーシ単位でビジュアル表示を行い、ブレードのエラー発生状況の一覧や、ブレードの各種情報の参照、電源制御や CALL ランプ制御などが可能なソフトウェアです。

VDC Viewer をご利用される前に、ConsoleDA UI と VDC 設定ツールによって事前に設定を行っていただく必要があります。

事前に設定を行っていただく項目は下表の通りです。

使用するソフトウェア	設定項目
ConsoleDA UI	<ul style="list-style-type: none">・ 接続先設定・ 設置場所、ラック、シャーシ、ブレードの登録・ 設置場所、ラック、シャーシ、ブレードの接続構成ツリーの作成
VDC 設定ツール	<ul style="list-style-type: none">・ 設置場所フロア画像データの読み込みや簡易編集・ 設置場所におけるラックの配置・ シャーシのラック搭載位置の設定・ ブレードのシャーシ搭載位置の設定

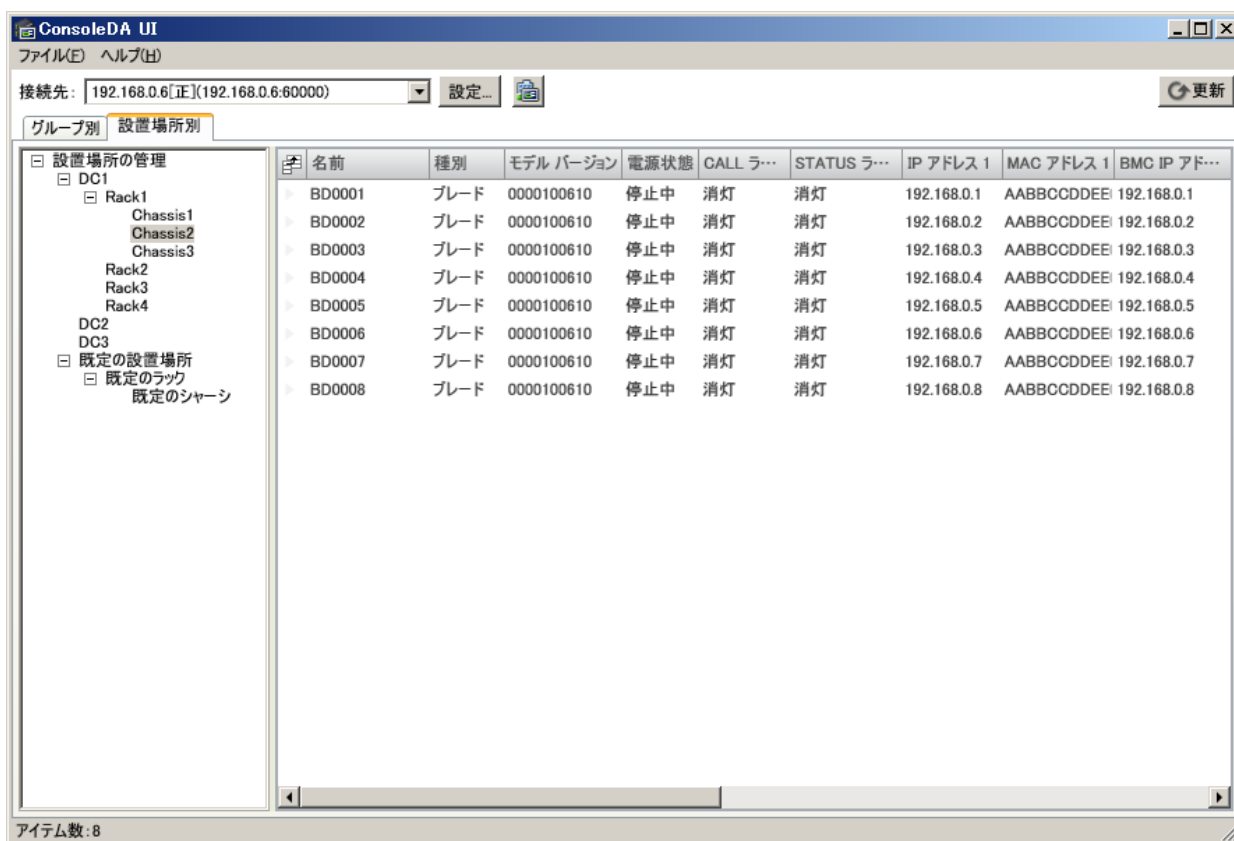
注意	<ul style="list-style-type: none">・設置場所、ラック、シャーシ、ブレードの設定が ConsoleDA UI と VDC 設定ツールで適切にされていないと、VDC Viewer で表示することができません。・VDC 設定ツールで起動する際は、なるべく ConsoleDA Manager サービスを停止してください。停止されない場合、まれに VDC 設定ツールがエラーで終了したり、イベントログにエラーが記録されたりすることがあります。
補足	<ul style="list-style-type: none">・VDC Viewer、ConsoleDA UI、および VDC 設定ツールは、インストール CD-ROM 内の UISetup.exe で一括インストールされます。

2 VDC Viewerご利用前の準備

2-1 ConsoleDA UIの設定

VDC Viewer は ConsoleDA UI にて下記の項目を設定しておく必要があります。設定方法は、「ConsoleDA UI 操作マニュアル」を参照してください。

- ・ 接続先設定
- ・ 設定場所、ラック、シャーシ、ブレードの登録
- ・ 設置場所別表示画面での設置場所、ラック、シャーシおよびブレードの接続構成ツリーの作成



ConsoleDA UI 設置場所別画面

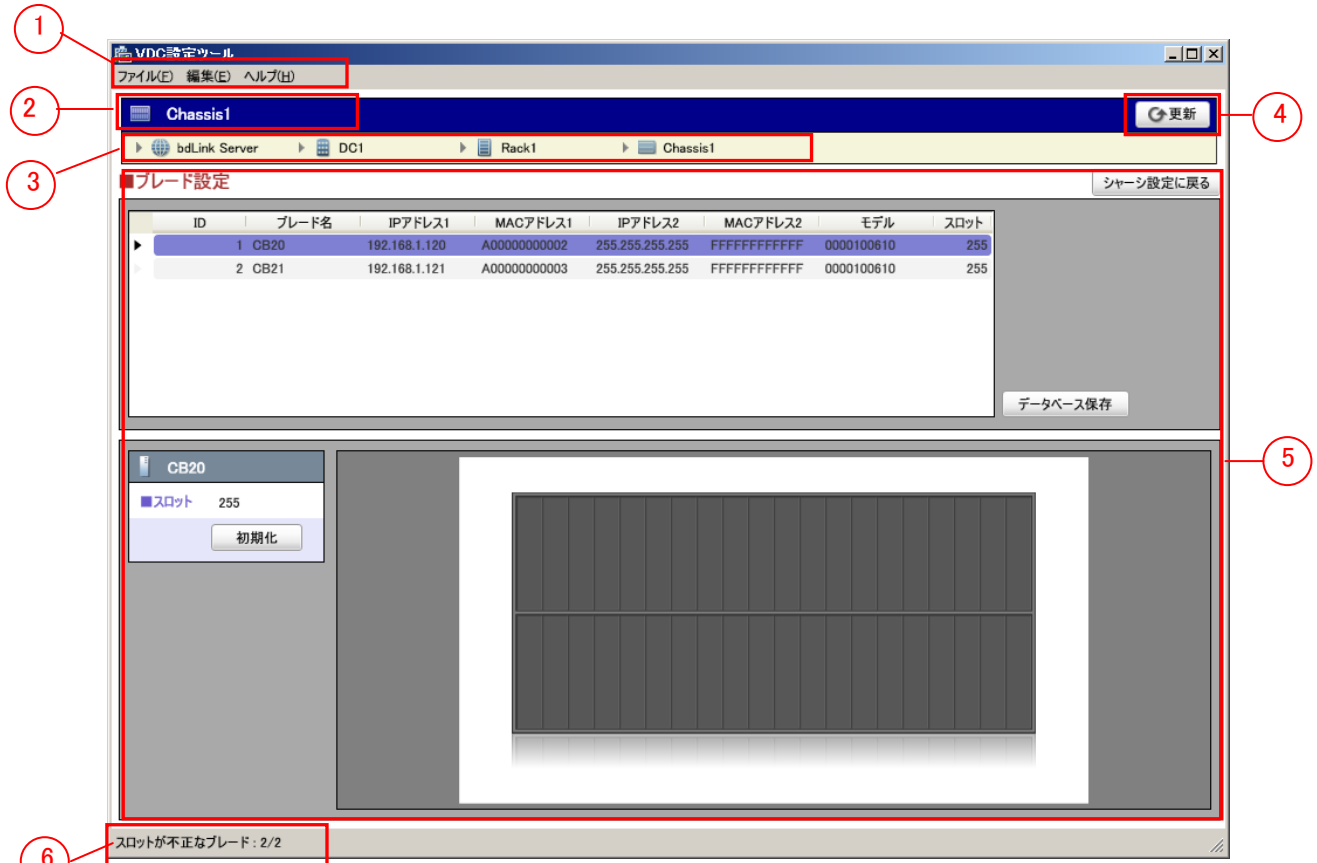
2-2 VDC設定ツールによる設定

2-2-1 VDC設定ツールの起動

スタートメニューの「すべてのプログラム」→「ConsoleDA」→「ConsoleDA Tools」から「VDC 設定ツール」を選択して起動します。

注意	・VDC 設定ツールで起動する際は、なるべく ConsoleDA Manager サービスを停止してください。停止されない場合、まれに VDC 設定ツールがエラーで終了したり、イベントログにエラーが記録されたりすることがあります。
-----------	---

2-2-2 各部の説明



VDC 設定ツール画面構成

(1) メニュー

メニューの各機能は以下の通りです。

メインメニュー	サブメニュー	機能
ファイル(F)	接続先管理(C)	接続先の設定を行います。
	終了(X)	アプリケーションを終了します。
編集(E)	元に戻す(U)	元に戻す操作を行います。フロア画像を編集するときに使用します。
	切り取り(T)	切り取り操作を行います。フロア画像を編集するときに使用します。
	コピー(C)	コピー操作を行います。フロア画像を編集するときに使用します。
	貼り付け(P)	貼り付け操作を行います。フロア画像を編集するときに使用します。
	削除(D)	削除操作を行います。フロア画像を編集するときに使用します。
ヘルプ(H)	バージョン情報(V)	バージョンを確認できます。

(2) **選択中のアイテム**

現在設定中の接続先名、設置場所名、ラック名、およびシャーシ名を表示します。

(3) **アイテムの移動バー**

設定するアイテムを選択できます。

(4) **更新ボタン**

接続先のデータベースから最新のデータを取得します。

(5) **作業領域**

設置場所設定、ラック設定、シャーシ設定、およびブレード設定の各設定の作業領域です。

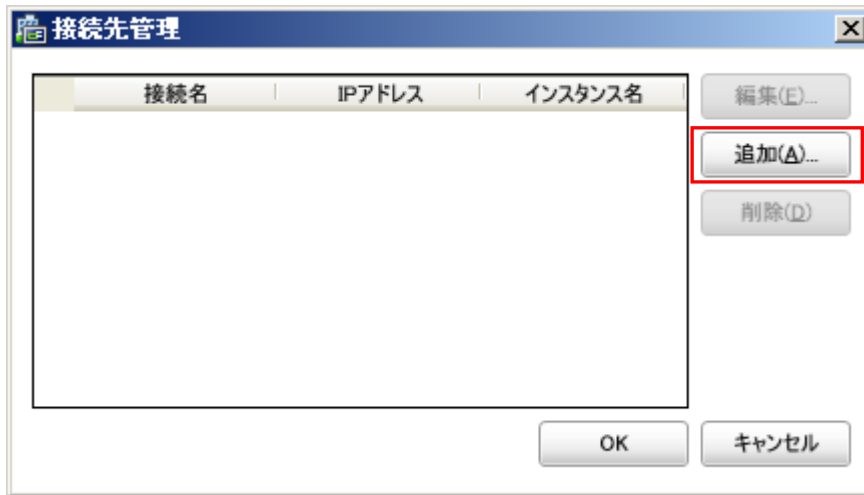
(6) **ステータスバー**

現在の作業ステータスを表示します。

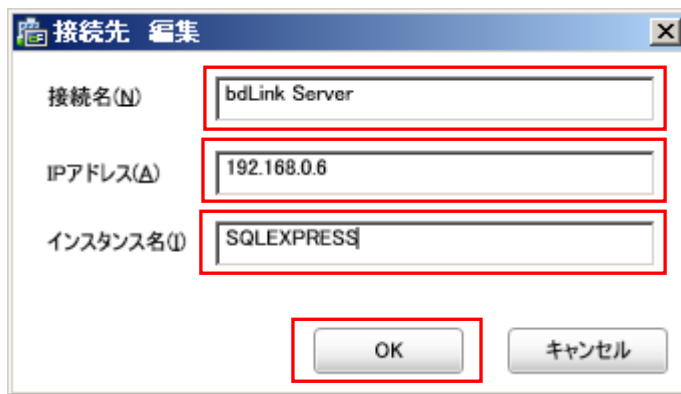
2-2-3 接続先設定

最初に接続先の設定を行う必要があります。

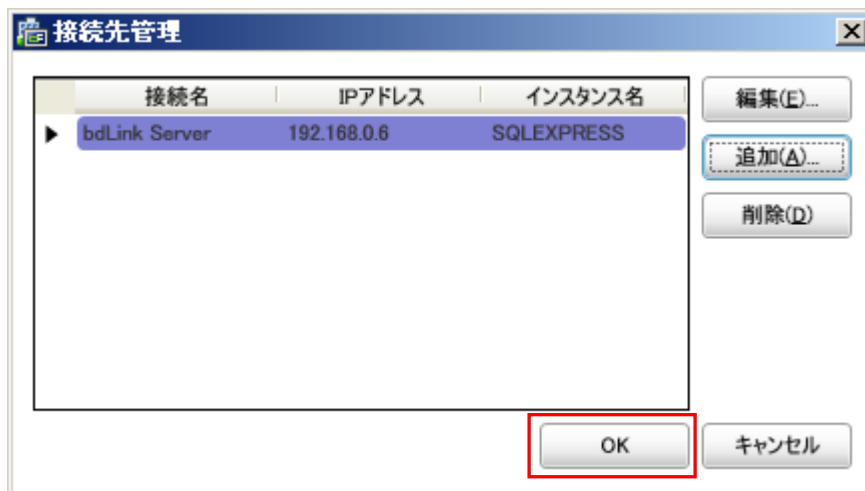
- (1) メニューから「ファイル」→「接続先管理」を選択してください。接続先管理画面が表示されます。
- (2) 接続先管理画面の「追加」ボタンをクリックしてください。接続先編集画面が表示されます。



- (3) 接続名に任意の名称を、IP アドレスに SQL Server®の IP アドレスを、インスタンス名に SQL Server®のインスタンス名を入力して「OK」ボタンをクリックしてください

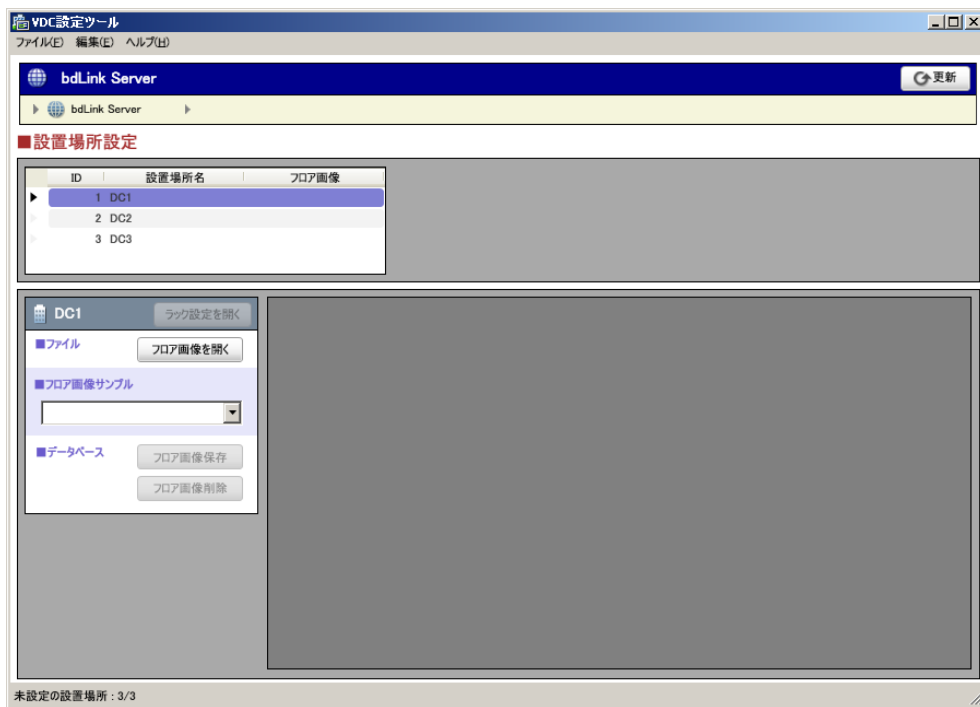


- (4) 登録した接続先を編集したい場合は、リストの該当接続先を選択して、「編集」ボタンをクリックします。登録した接続先を削除したい場合は、リストの該当接続先を選択して、「削除」ボタンをクリックします。接続先の登録が完了しましたら、「OK」ボタンをクリックして接続先管理の画面を終了します。



2-2-4 設置場所設定

設置場所設定は、各設置場所のフロアの画像を設定します。フロアの画像はお客様にてあらかじめ用意した画像ファイルをインポートするか、サンプルのフロア画像を編集して作成します。



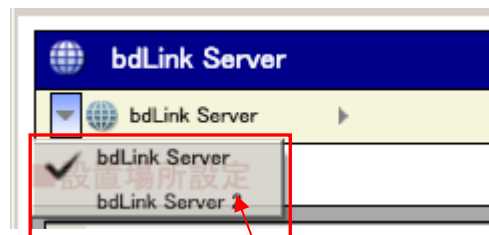
設置場所設定画面

(1) 接続先が設定済みの場合、VDC 設定ツール起動直後は、設置場所設定画面が表示されます。

接続先が複数登録されている場合は、アイテムの移動バーの左端の▶ をクリックして、表示される接続先を選択します。

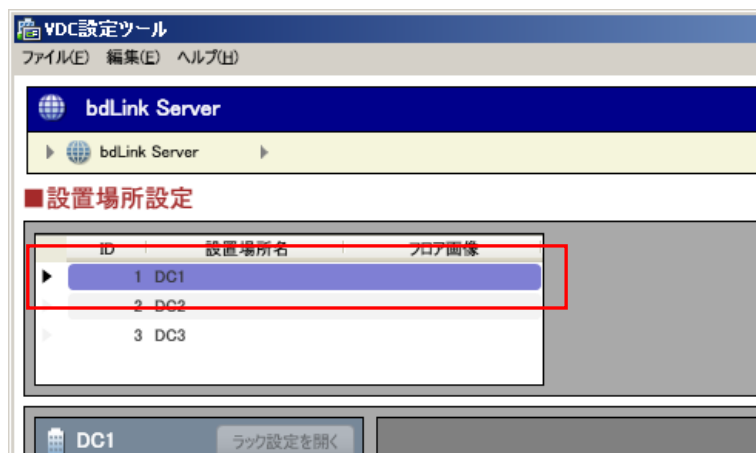


クリックします。

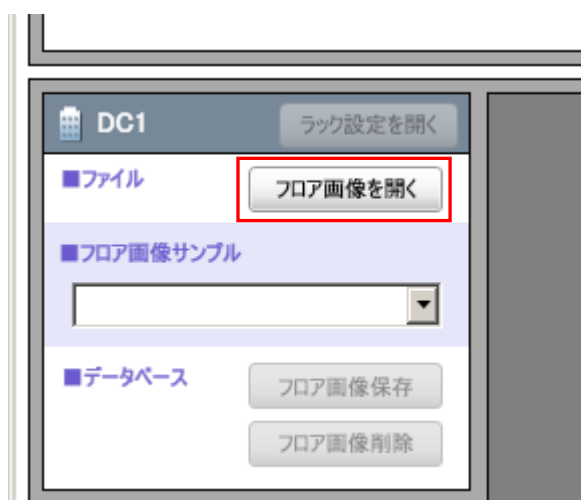


表示される接続先から選択します。

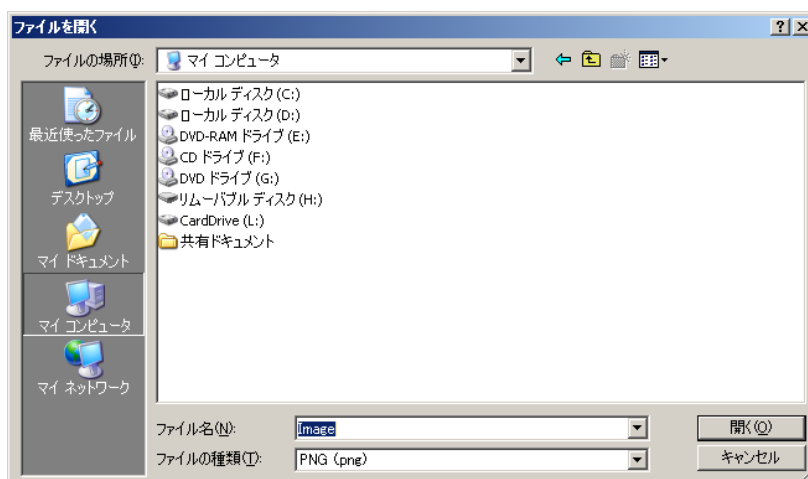
- (2) リストから設定する設置場所をクリックして選択します。(リストに設置場所が表示されない場合は、ConsoleDA UI を使用して設置場所を設定してください。)



- (3) あらかじめご用意した画像ファイルを使用する場合は、「フロア画像を開く」ボタンをクリックします。

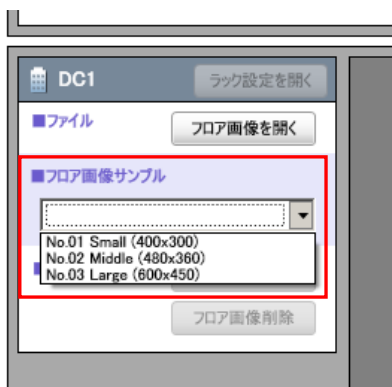


ファイルを選択します。ファイルの種類を変更することにより、PNG、JPEG、BMP 形式のファイルを開くことができます。



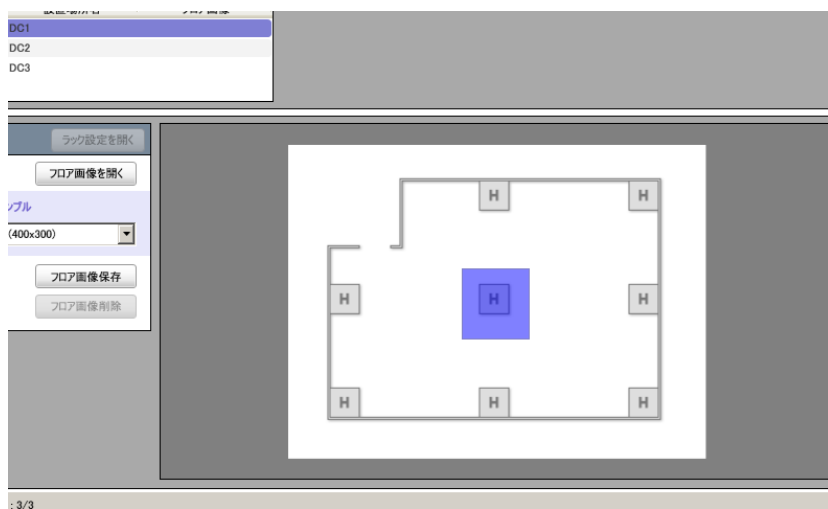
注意	<ul style="list-style-type: none"> 開くことのできる画像ファイルのサイズは、水平サイズが320～800ドット、垂直サイズが240～600ドットの範囲のものに限ります。
補足	<ul style="list-style-type: none"> 解像度が 96dpi の画像ファイルをご使用ください。それ以外の画像ファイルを使用しますと正しく表示されないことがあります。

- (4) フロア画像のサンプルを開く場合は、「フロア画像サンプル」のコンボボックスをクリックして表示される項目のいずれかを選択します。



- (5) 開いたフロア画像を簡易的に編集することができます。

マウスドラッグにより範囲を選択後にその領域をマウスドラッグで別の場所に移動したり、ショートカットキーにより各種編集操作が行えます。



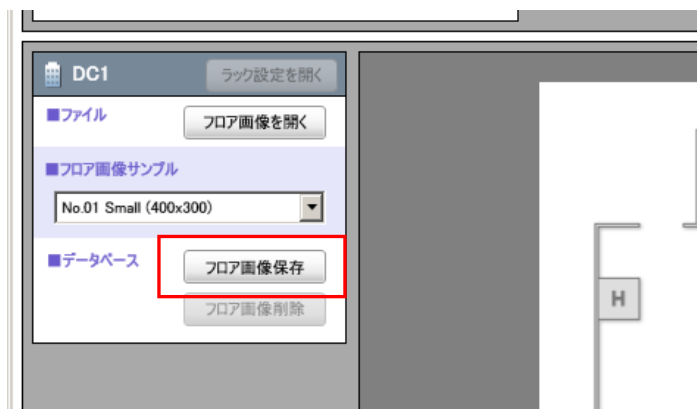
: 3/3

編集機能	ショートカットキー	説明
切り取り	Ctrl + X	選択範囲をクリップボードにコピーして、白で塗りつぶします。
コピー	Ctrl + C	選択範囲をクリップボードにコピーします。
貼り付け	Ctrl + V	クリップボードから画像をコピーして左上に選択状態で表示します。
削除	Delete	選択範囲を白で塗りつぶします。
元に戻す	Ctrl + Z	操作前の状態に 3 回までさかのぼって戻すことができます。

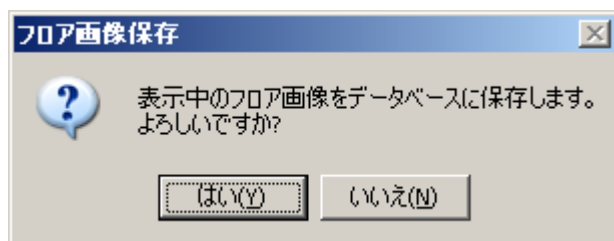
補足

・ フロア画像を詳細に編集したい場合は、市販のグラフィックソフトやフリーソフトをご利用ください。

(6) フロア画像の読み込みや編集が完了しましたら、「フロア画像保存」ボタンをクリックして、フロア画像をデータベースに保存します。



確認のダイアログが表示されましたら「はい」をクリックします。



画像がデータベースに保存されると、リストの「フロア画像」列に ○ が付きます。

■ 設置場所設定

ID	設置場所名	フロア画像
1	DC1	○
2	DC2	
3	DC3	

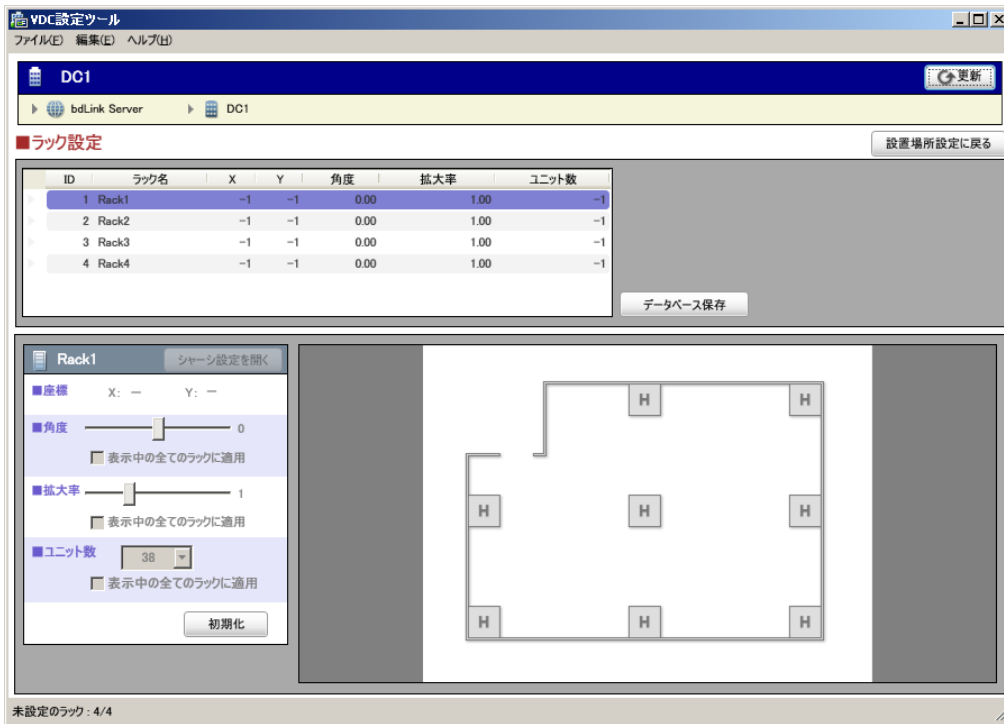
引き続き他の設置場所にフロア画像を設定する場合は、同様の操作を繰り返してください。

補足

- ・「フロア画像削除」ボタンで、データベースに保存されたフロア画像を削除することができます。
- ・データベースに保存されたフロア画像を変更したい場合は、再度設定操作を行ってください。
- ・「更新」ボタンをクリックすると、データベースから最新の情報を取得します。

2-2-5 ラック設定

各設置場所におけるラックの配置やラックの総ユニット数を設定します。



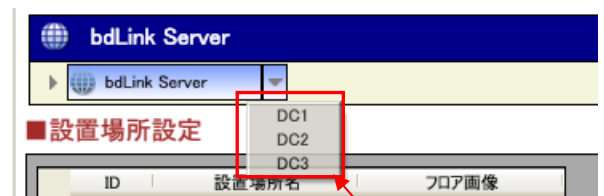
ラック設定画面

(1) ラック設定は設置場所ごとに行います。設置場所設定画面にて設定する設置場所を選択します。選択方法は、アイテムの移動バーから行う方法と、リストをクリックしてラック設定を開く方法の2通りがあります。

(アイテムの移動バーから選択する場合)

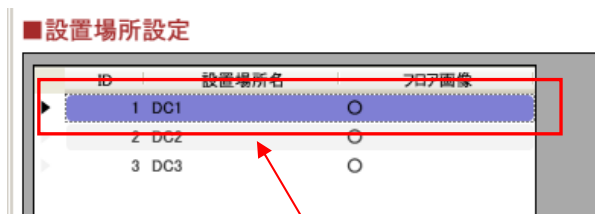


クリックします。

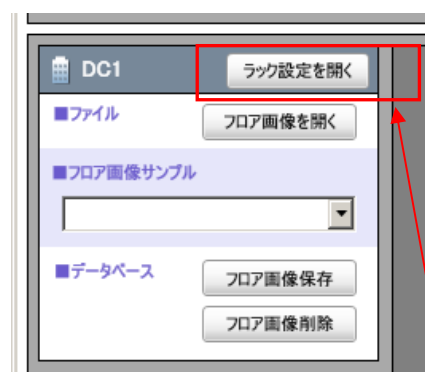


表示される設置場所から選択します。

(リストを選択してラック設定を開く場合)



設定する設置場所の行をクリックします。



「ラック設定を開く」ボタンをクリックします。

- (2) ラック設定が開きます。リストに各ラックが表示されます。(リストに表示されない場合は、設置場所にラックが登録されていません。ConsoleDA UI で設定してください。)

■ラック設定

ID	ラック名	X	Y	角度	拡大率	ユニット数
▶ 1	Rack1	-1	-1	0.00	1.00	-1
▶ 2	Rack2	-1	-1	0.00	1.00	-1
▶ 3	Rack3	-1	-1	0.00	1.00	-1
▶ 4	Rack4	-1	-1	0.00	1.00	-1

データベース保存

補足 ・ラックが未設定の状態では、X=-1、Y=-1、角度=0.00、拡大=1.0、ユニット数=-1となっています。

- (3) 設定を行うラックをリストから選択し、「初期化」ボタンをクリックします。

Rack1 シャーシ設定を開く

■座標 X: 0 Y: 0

■角度 表示中の全てのラックに適用

■拡大率 表示中の全てのラックに適用

■ユニット数 表示中の全てのラックに適用

初期化

- (4) フロア画像の左上にラックが表示され、設定が可能になります。

VDC設定ツール

DC1

bdLink Server > DC1

■ラック設定 設置場所設定に戻る

ID	ラック名	X	Y	角度	拡大率	ユニット数
▶ 1	Rack1	0	0	0.00	1.00	38
▶ 2	Rack2	-1	-1	0.00	1.00	-1
▶ 3	Rack3	-1	-1	0.00	1.00	-1
▶ 4	Rack4	-1	-1	0.00	1.00	-1

データベース保存

Rack1 シャーシ設定を開く

■座標 X: 0 Y: 0

■角度 表示中の全てのラックに適用

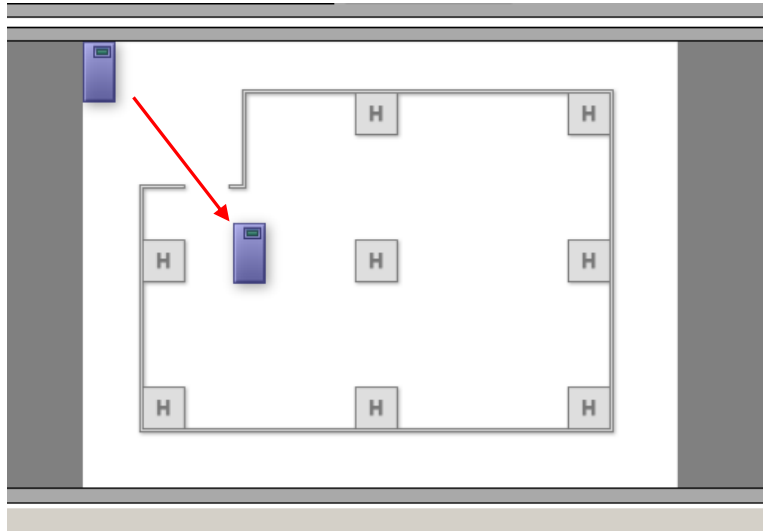
■拡大率 表示中の全てのラックに適用

■ユニット数 表示中の全てのラックに適用

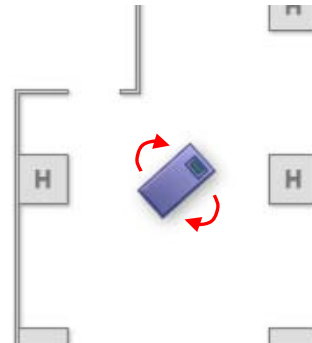
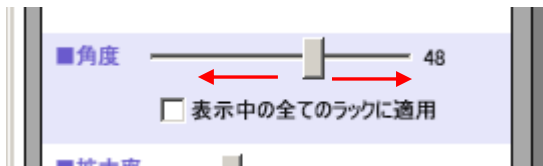
初期化

未設定のラック: 4/4

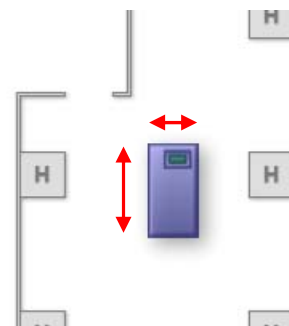
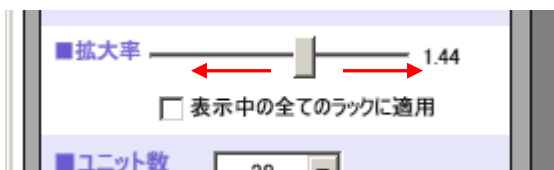
ラックの移動をマウスのドラックにより行ってフロア画像上に配置してください。



角度のスライダーバーを操作することにより、ラックの設置の角度を調整することができます。「表示中の全てのラックに適用」のチェックボックスにチェックを入れてスライダーバーを操作すると、リスト内の全てのラックの設定を変更することができます。調整範囲：-180° ~+180°)



拡大率のスライダーバーを操作することにより、ラックのサイズを調整することができます。「表示中の全てのラックに適用」のチェックボックスにチェックを入れてスライダーバーを操作すると、リスト内の全てのラックの設定を変更することができます。調整範囲：0.60~2.00)

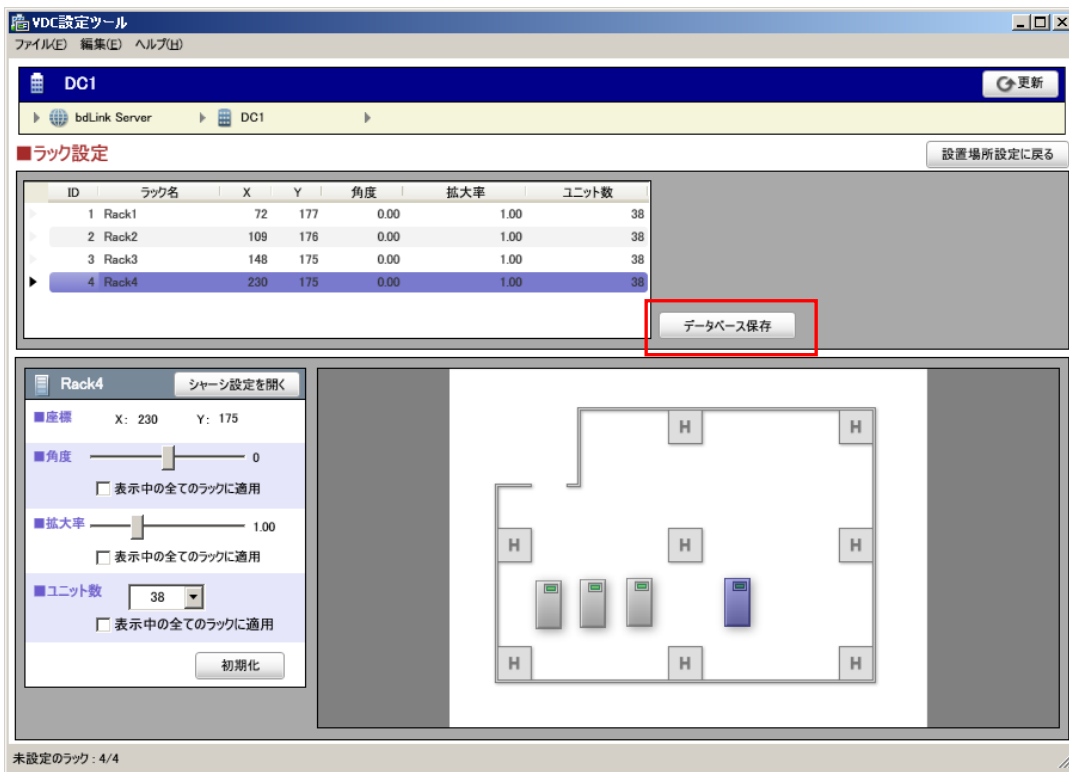


ラックの総ユニット数を 3、5、16、38 から選択します。「表示中の全てのラックに適用」のチェックボックスにチェックを入れて設定すると、リスト内の全てのラックの設定を変更することができます。)



※VDC Viewer でサポートされているラックのユニット数は 3、5、16、38 ユニットです。

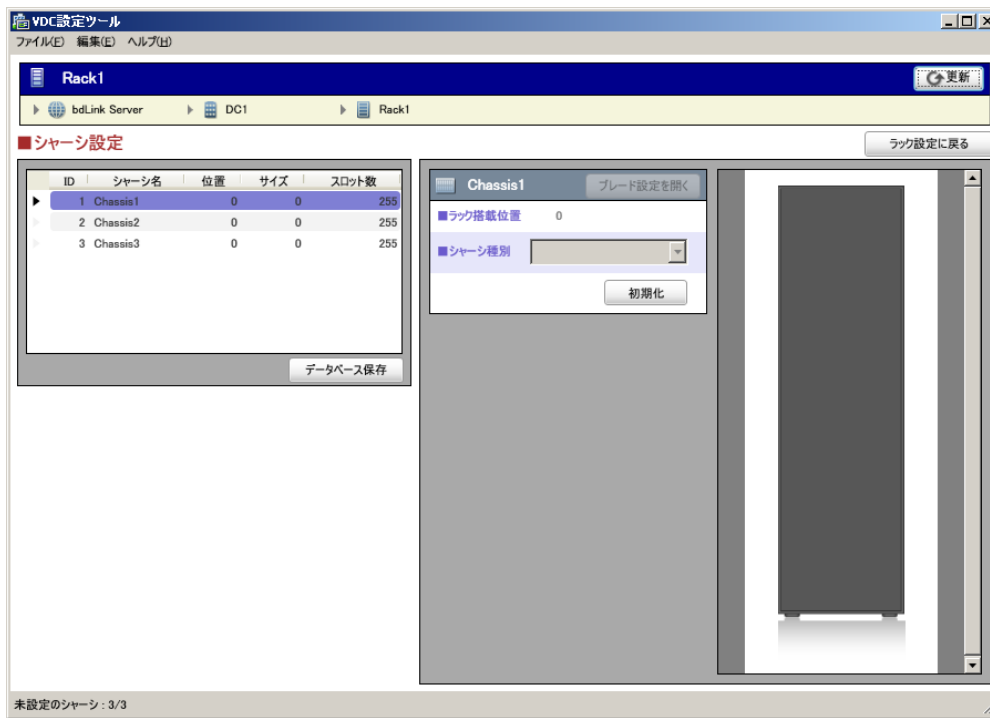
- (5) リスト内の全てのラックの設定が完了しましたら、「データベース保存」ボタンをクリックして、設定した状態をデータベースに保存します。



他の設置場所にラックがあれば、設置場所を変更して各ラックの設定を行います。

2-2-6 シャーシ設定

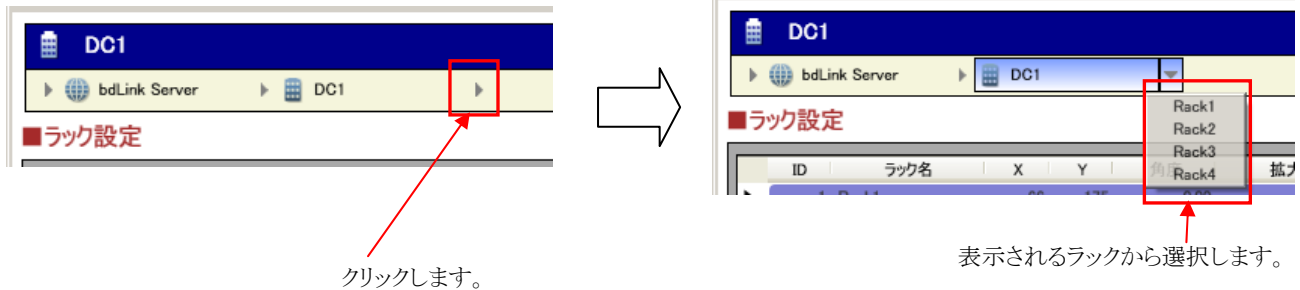
各ラックにおけるシャーシの種別や搭載位置を設定します。



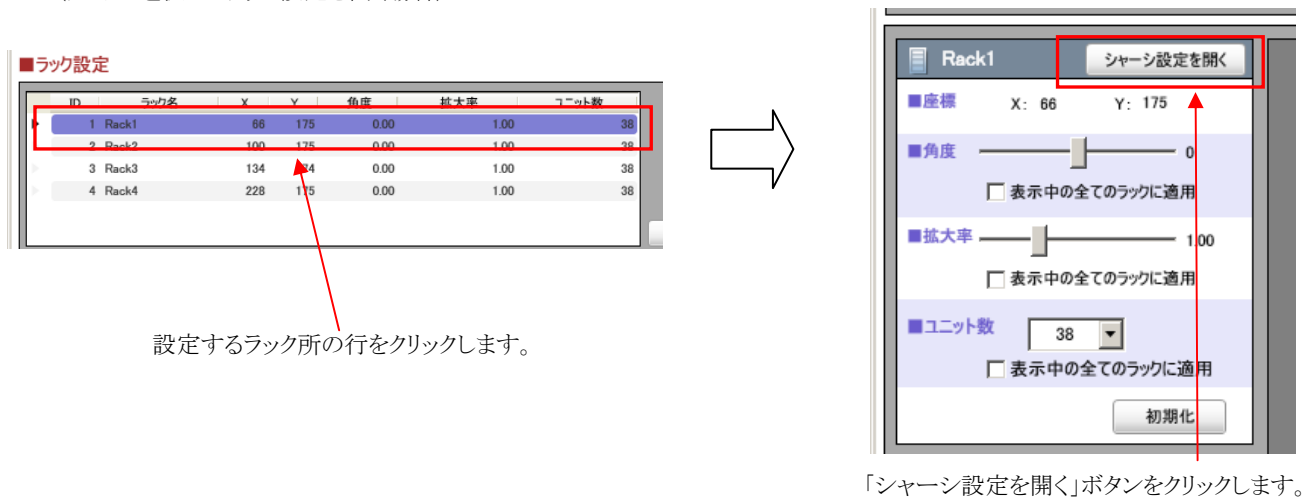
シャーシ設定画面

- (1) シャーシ設定はラックごとに行います。ラック設定画面にて設定するラックを選択します。選択方法は、アイテムの移動バーから行う方法と、リストをクリックしてシャーシ設定を開く方法の2通りがあります。

(アイテムの移動バーから選択する場合)



(リストで選択してラック設定を開く場合)

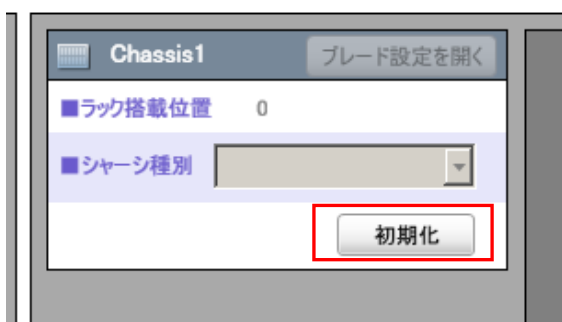


- (2) シャーシ設定が開きます。リストにシャーシが表示されます。(リストに表示されない場合は、ラックにシャーシが登録されていません。ConsoleDA UI で設定してください。)

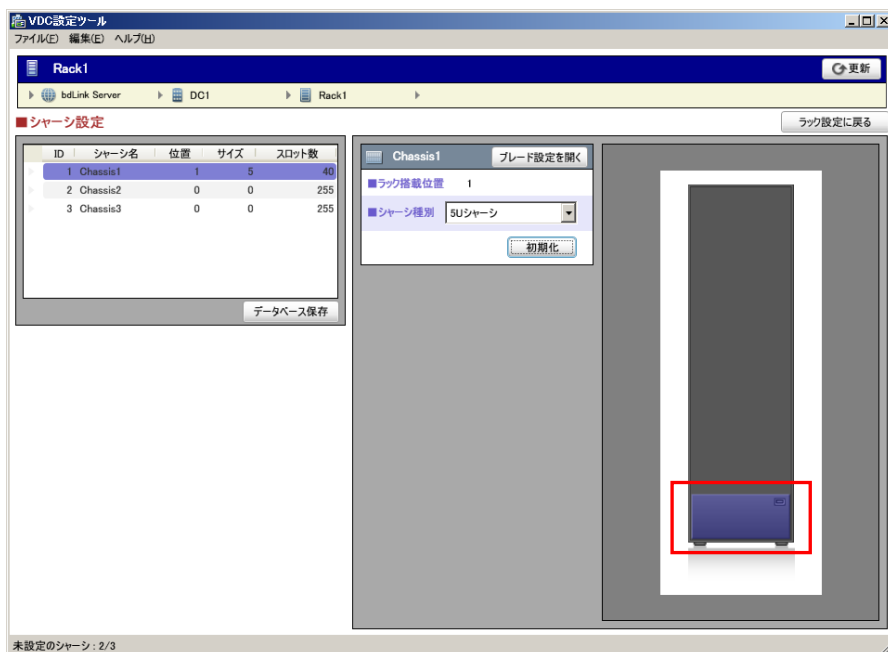


補足 ・ シャーシが未設定の状態では、位置=0、サイズ=0、スロット数=255 となっています。

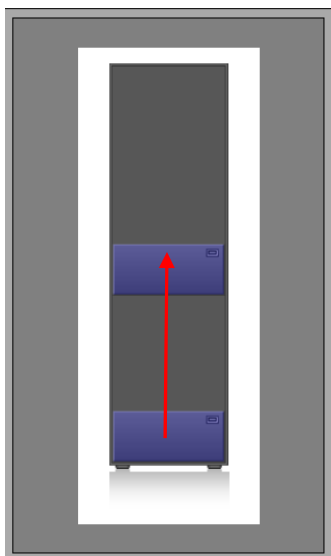
- (3) 設定を行うシャーシをリストから選択し、「初期化」ボタンをクリックします。



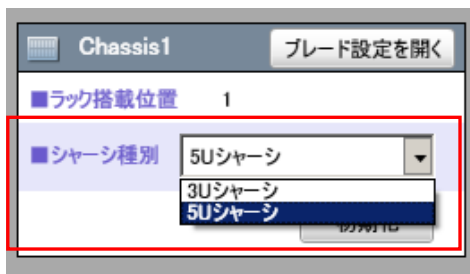
- (4) ラックの図の下端(搭載位置=1)にシャーシが表示され、設定が可能となります。



シャーシの搭載位置の変更は、マウスのドラッグにより行ってください。

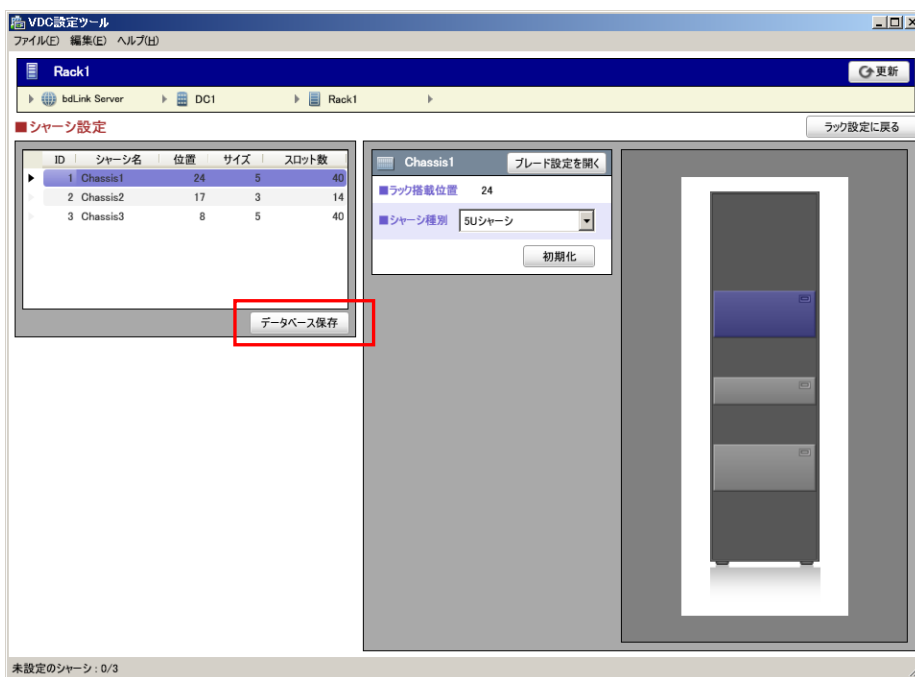


「シャーシ種別」のコンボボックスから「5U シャーシ」または「3U シャーシ」を選択してください。



補足	<ul style="list-style-type: none"> 「5U シャーシ」はスロット数が 40 のシャーシです。「3U シャーシ」はスロット数が 14 のシャーシです。本バージョンの VDC Viewer ではこの 2 種類のシャーシのみサポートしています。
-----------	---

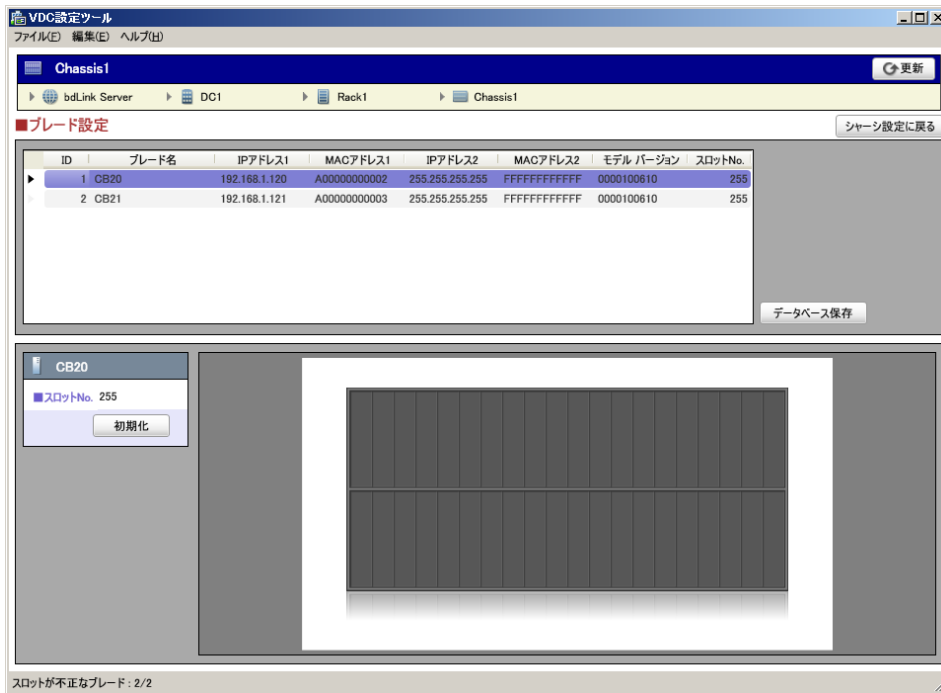
- (5) リスト内の全てのシャーシの設定が完了しましたら、「データベース保存」ボタンをクリックして、設定した状態をデータベースに保存します。



他のラックにシャーシが登録されていれば、ラックを変更して同様に各シャーシの設定を行います。

2-2-7 ブレード設定

各シャーシにおけるブレードの搭載位置を設定します。

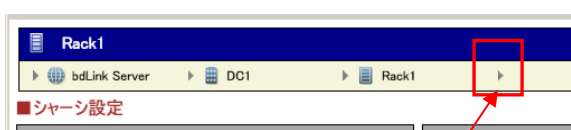


ブレード設定画面

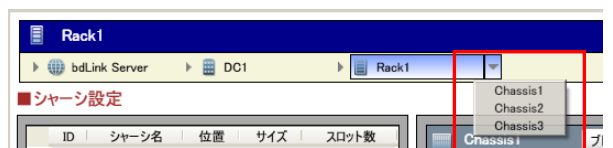
注意	<ul style="list-style-type: none"> FLORA bd500 X7 および HA8000-bd/BD10 のブレードでは OS 上に「ConsoleDA Agent」または「ConsoleDA Agent For Server」がインストールされている場合、スロット位置設定が自動で行われます。本画面での設定は不要です。
	<ul style="list-style-type: none"> FLORA bd100 X6 のブレードや OS 上に「ConsoleDA Agent」または「ConsoleDA Agent For Server」がインストールされない環境では、ブレード搭載位置を本設定画面にて正しく設定する必要があります。

(1) ブレード設定はシャーシごとに行います。シャーシ設定画面にて設定するシャーシを選択します。選択方法は、アイテムの移動バーから行う方法と、リストをクリックしてブレード設定を開く方法の 2 通りがあります。

(アイテムの移動バーから選択する場合)



クリックします。

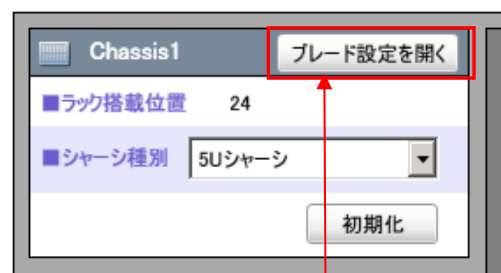


表示されるシャーシから選択します。

(リストで選択してラック設定を開く場合)

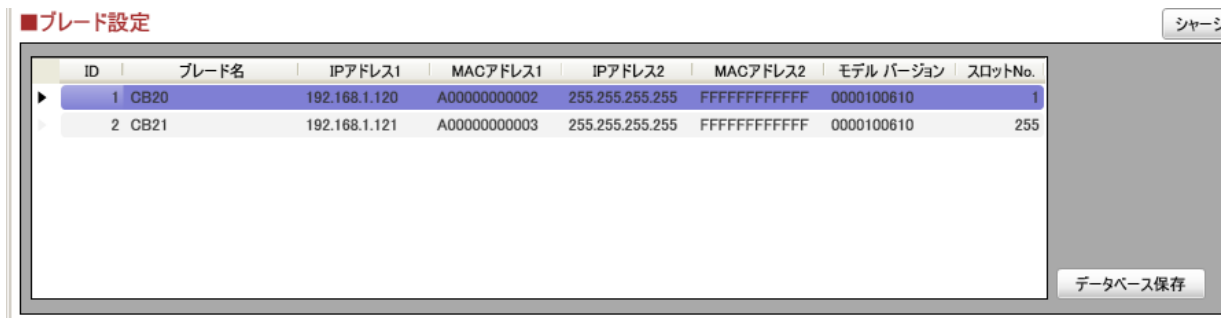


クリックします。



「シャーシ設定を開く」ボタンをクリックします。

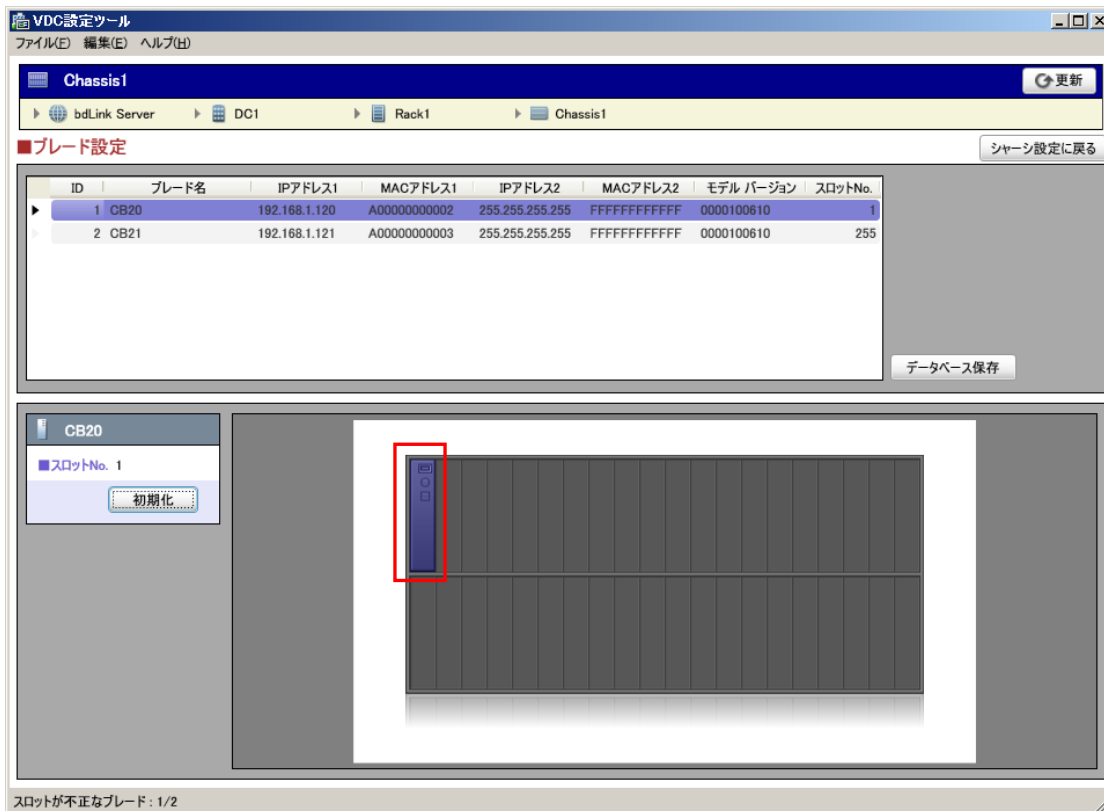
- (2) ブレード設定が開き、リストにブレードが表示されます。(リストに表示されない場合は、シャーシにブレードが登録されていません。ConsoleDA UI で設定してください。)



- (3) ConsoleDA UI で設定されたスロット No.がシャーシの総スロット数の範囲内の場合は、シャーシ図内にブレードが表示されます。表示されない場合は、初期化ボタンをクリックします。

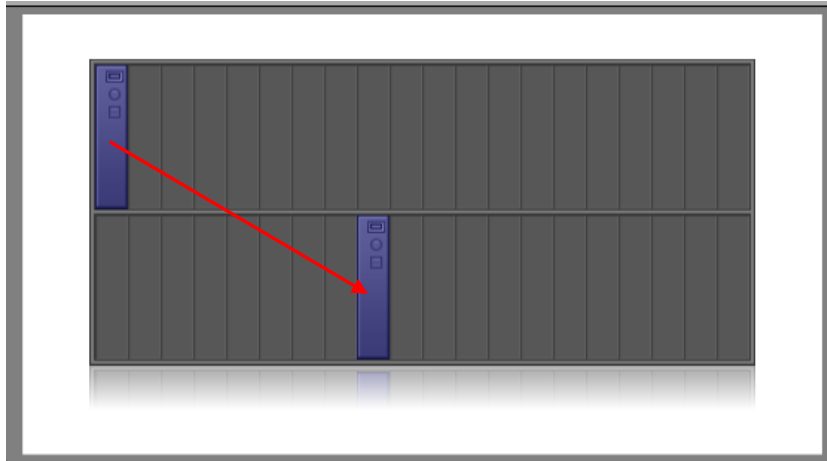


スロット1の位置にブレードが表示されます。

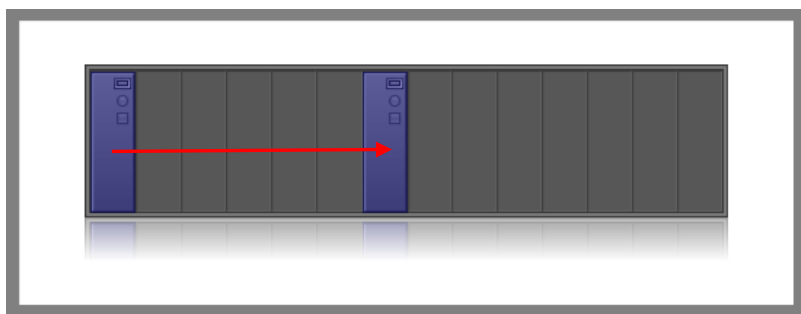


(4) シャーシ内のブレードをマウスでドラッグすることによりブレードが移動します。

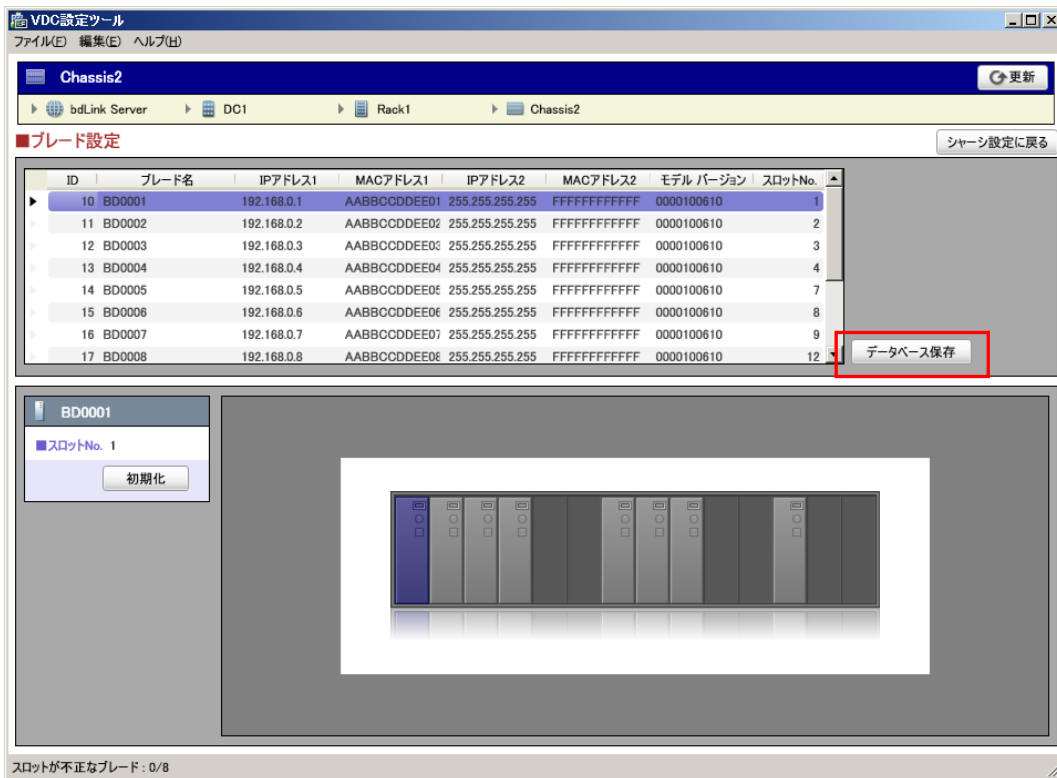
(5U シャーシの場合)



(3U シャーシの場合)



(5) リスト内の全てのブレードの設定が完了したら、「データベース保存」ボタンをクリックして、設定した状態をデータベースに保存します。



他のシャーシにブレードが登録されていれば、シャーシを変更して各ブレードの設定を同様に行います。

3 VDC Viewerの操作方法

3-1 全画面共通の基本操作

基本画面 各エリアの名称



[1]メインメニュー

VDC Viewer で使うことのできる機能が一通り網羅されています。操作方法が分からなくなったときはここを参照してください。

[2]画面タイトル

画面に表示中の接続先名(設置場所名・ラック名・シャーシ名)が表示されます。

[3]コラムトレイル

表示中のコンテンツの上位階層構造が表示されます。また、それぞれの階層画面への移動ができます。

[4]コンテンツエリア

設置場所(ラック・シャーシ)の外観図が表示されます。

[5]コンテンツエリア・アクション

選択したコンテンツに対する主要な操作を行うボタンが並んでいます。

[6]凡例

コンテンツエリアに表示されるアイコンの意味が表示されています。

[7]詳細情報エリア

選択したコンテンツについての情報が表示されます。

[8]アラート情報エリア

発生したアラートの、日時とブレードのフルパスが一覧表示されます。

[9]サマリー情報エリア

表示中のコンテンツの下層に属する機器数・エラーログの発生件数・STATUSランプが点滅状態になった回数が表示されます。



基本操作

・移動

①ドリルダウン

コンテンツエリアの機器を選択し、「[下位階層名]を開く」ボタンをクリックすると、1つ下の階層画面へ移動します。機器をダブルクリックして移動することもできます。

②1つ上の階層に戻る

「[上位階層名]へ戻る」ボタンをクリックすると、1つ上の階層画面へ移動します。

③クラムトレイル

表示中のコンテンツの上位階層構造が表示されます。また、それぞれの階層画面への移動ができます。

・表示

④最新の情報に更新

「更新」ボタンをクリックするか「F5」キーを押すことで、画面の表示内容を最新の情報に更新します。

⑤エリアの開閉

エリア境界の三角形のボタンをクリックすることにより、それぞれのエリアを閉じ、コンテンツエリアを広く表示します。エリア境界をドラッグして表示幅を自由に調節することもできます。

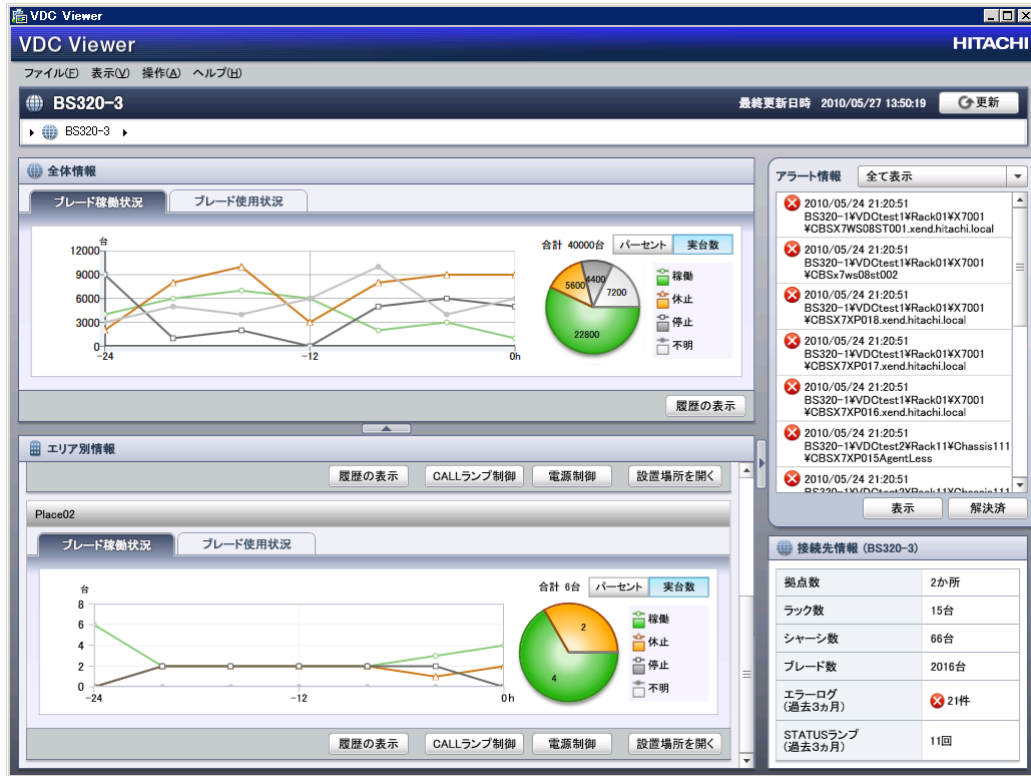
⑥凡例

クリックにより、凡例の 表示／非表示 を切り替えることができます。

制限	・「更新」操作を行うと、コンテンツやタブなどの選択状態が初期状態に戻ります。
-----------	--

3-2 各階層画面

3-2-1 Top画面



Top画面では、接続先全体および設置場所ごとのブレードの稼働状況・使用状況を表示します。

・Top画面のみ、他の画面とは一部異なる構成となっています。

接続先全体でのブレード稼働状況・使用状況グラフ、および設置場所ごとのブレード稼働状況・使用状況グラフが表示されます。

アクション(接続先全体)

[履歴の表示](#)

・・・ブレードの稼働履歴やユーザーの接続履歴をグラフにまとめて表示します。

アクション(設置場所)

[履歴の表示](#)

・・・ブレードの稼働履歴やユーザーの接続履歴をグラフにまとめて表示します。

[CALLランプ制御](#)

・・・その設置場所の全ブレードに対し、CALLランプの制御を行います。

[電源制御](#)

・・・その設置場所の全ブレードに対し、電源の制御を行います。

[設置場所を開く](#)

・・・その設置場所の表示画面に移動します。

3-2-2 設置場所画面



設置場所画面では、設置場所内のラックの配置や状態、各ラック内のブレードの稼働状況・使用状況を表示します。

- ・画面中央「コンテンツエリア」内のラックを選択すると、画面下部「詳細情報エリア」に、ラック内のブレードの稼働状況・使用状況グラフが表示されます。
- ・「トップに戻る」ボタンをクリックすると、Top 画面に移動します。

各アイコンが表示される条件

- エラー :ラック内に未解決アラート情報を持っているブレードが 1 台以上あるとき
- 稼働 :ラック内に稼働中のブレードが 1 台以上あるとき
- 停止 :ラック内のブレードが全て「停止」または「休止」状態のとき

アクション

- [履歴の表示](#) ..ブレードの稼働履歴やユーザーの接続履歴をグラフにまとめて表示します。
- [CALLランプ制御](#) ..選択したラック内の全ブレードに対し、CALLランプの制御を行います。
- [電源制御](#) ..選択したラック内の全ブレードに対し、電源の制御を行います。
- ラックを開く ..選択したラックの表示画面に移動します。

ラックの配置を変更する場合は、VDC 設定ツールを使用してください。

操作方法については「[2-2-5 VDC設定ツール ラック設定](#)」を参照してください。

注意	・「間違った位置情報、または位置情報が登録されていないコンテンツがあります。VDC 設定ツールを使用して確認してください。」と警告メッセージが表示された場合は、フロア画像がデータベースに保存されていないか、位置情報が未登録のラックが存在しています。「VDC 設定ツール」を使用してラックを適切に配置してください。
補足	・複数ラック選択時はブレード稼働状況・使用状況グラフが表示されません。

3-2-3 ラック画面



ラック画面では、ラック内のシャーシの配置や状態、各シャーシ内のブレードの稼働状況・使用状況を表示します。

- ・画面中央「コンテンツエリア」内のシャーシを選択すると、画面下部「詳細情報エリア」に、シャーシ内のブレードの稼働状況・使用状況グラフが表示されます。
- ・「設置場所に戻る」ボタンをクリックすると、表示中のラックが属する設置場所画面に移動します。

各アイコンが表示される条件

- エラー : シャーシ内に未解決アラート情報を持っているブレードが1台以上あるとき
- 稼働 : シャーシ内に稼働中のブレードが1台以上あるとき
- 停止 : シャーシ内のブレードが全て「停止」または「休止」状態のとき

アクション

[履歴の表示](#)

・ブレードの稼働履歴やユーザーの接続履歴をグラフにまとめて表示します。

[CALLランプ制御](#)

・選択したシャーシ内の全ブレードに対し、CALLランプの制御を行います。

[電源制御](#)

・選択したシャーシ内の全ブレードに対し、電源の制御を行います。

シャーシを開く

・選択したシャーシの表示画面に移動します。

シャーシの配置を変更する場合は、「VDC 設定ツール」を使用してください。

操作方法については「[2-2-6 VDC設定ツール シャーシ設定](#)」を参照してください。

注意	・「間違った位置情報、または位置情報が登録されていないコンテンツがあります。VDC 設定ツールを使用して確認してください。」と警告メッセージが表示された場合は、位置情報が未登録のシャーシが存在しています。「VDC 設定ツール」を使用して適切な設定を行ってください。
補足	・複数シャーシ選択時はブレード稼働状況・使用状況グラフが表示されません。










3-2-4 シャーシ画面



シャーシ画面では、シャーシ内のブレードの配置や状態、アラート情報などを表示します。

- ・表示されているブレードを選択すると、画面下部「詳細情報エリア」に、ブレードのサマリー情報・アラート履歴情報が表示されます。「詳細情報エリア」の表示内容について詳しくは、[3-6 ブレードの情報](#)を参照してください。
- ・「ラックに戻る」ボタンをクリックすると、表示中のシャーシが属するラック画面に移動します。

各アイコンが表示される条件

 エラー	:ブレードが未解決アラート情報を持っているとき
 不明	:ブレードの電源状態情報が取得できないとき (「不明」状態では、他のアイコンが非表示になり、不明アイコンのみがブレードに表示されます。 また、未解決アラート情報を持っているブレードの電源状態が取得できないときは、エラーアイコンのみがブレードに表示されます。)
 稼働	:ブレードが稼働しているとき
 停止	:ブレードが停止しているとき
 休止	:ブレードが休止状態のとき
 CALL ランプ点灯	:ブレードの CALL ランプが点灯または点滅(1Hz・3Hz)しているとき
 CALL ランプ消灯	:ブレードの CALL ランプが消灯しているとき
 STATUS ランプ点灯	:ブレードの STATUS ランプが点滅しているとき
 STATUS ランプ消灯	:ブレードの STATUS ランプが消灯しているとき

アクション

状態通知レポート	..選択したブレードの情報をまとめ、ファイル出力します。
履歴の表示	..ブレードやユーザーの接続履歴をグラフにまとめて表示します。
CALLランプ制御	..選択したブレードのCALLランプを制御します。
電源制御	..選択したブレードの電源を制御します。

ブレードの配置(スロット No.)を変更する場合は、「VDC 設定ツール」または「ConsoleDA UI」を使用してください。

「VDC設定ツール」については「[2-2-7 ブレード設定](#)」を、「ConsoleDA UI」については「ConsoleDA UI 操作マニュアル」をそれぞれ参照してください。

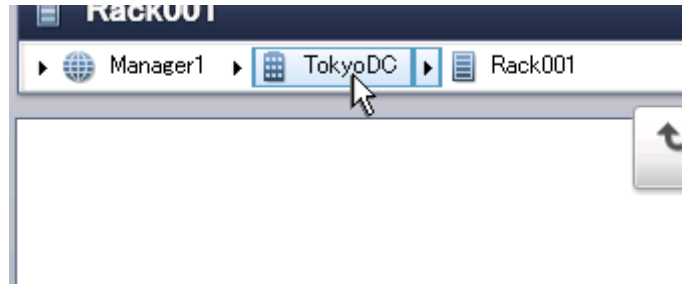
注意	・「間違った位置情報、または位置情報が登録されていないコンテンツがあります。VDC 設定ツールを使用して確認してください。」と警告メッセージが表示された場合は、シャーンにインストールされたブレードのスロット No に、重複・未設定などの不備があります。VDC 設定ツール または ConsoleDA UI を使用してブレードを適切に配置してください。
補足	・複数ブレード選択時は「詳細情報エリア」の情報が表示されません。

3-3 クラムトレイル

・表示中のコンテンツの上位階層構造を表示し、またそれぞれの階層画面への移動ができます。
画面移動には2つの方法があります。

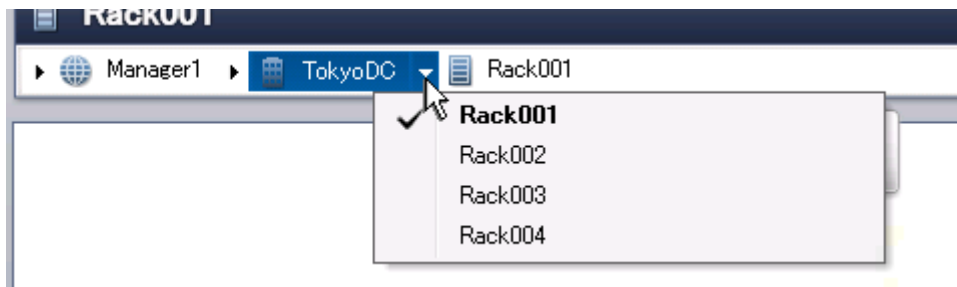
1. 上位階層へ移動

表示されている接続先名・設置場所名・ラック名をクリックすると、その表示画面へ移動します。(接続先名を選択した場合は Top 画面へ移動します。)



2. リストから機器名を選択して移動

▶ボタンをクリックすると、その右隣に表示されている機器と同じ階層の機器名がリスト表示されます。ここから1つを選択してその表示画面に移動することができます。

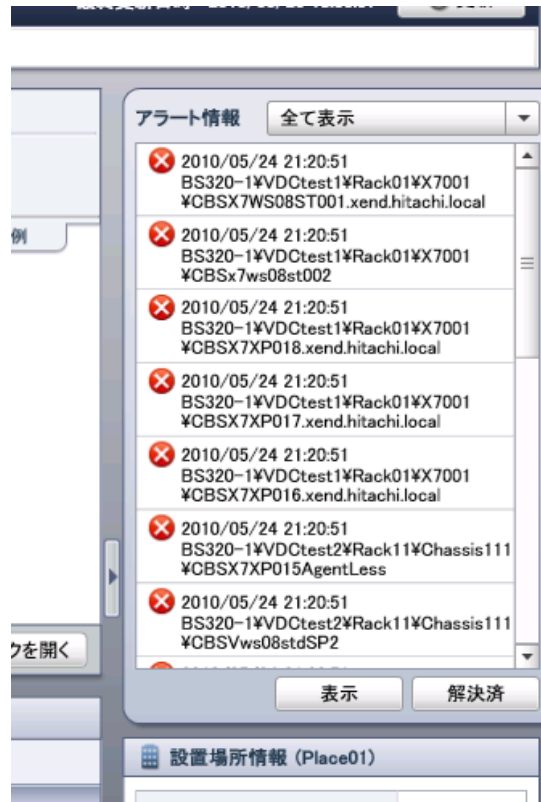


また、左端の▶ボタンをクリックすると、登録されている接続先名がリスト表示され、ここから接続先の切り替えを行うことができます。「接続先の切替:」を選択すると、通常の接続先切り替えダイアログを表示します。接続先の ConsoleDA Manager の IP アドレスを確認して切り替えを行う場合はこちらを選択してください。



3-4 アラート情報

アラートの発生情報を一覧表示します。



メイン画面右部、図の箇所が「アラート情報エリア」です。ここに、接続中の ConsoleDA Manager で発生したアラートの発生日時と発生したブレードの位置が表示されます。(表示は発生日時降順です。)

移動

項目を選択し「表示」ボタンをクリックすると、そのブレードの表示画面へ移動し、情報が確認できます。

解決

エラー内容の問題が解決し、アラート情報が不要になった場合、そのアラート項目を「解決済み」として区別することができます。

項目を選択し「解決済」ボタンをクリックしてください。なお、一度「解決済み」状態にした項目は元に戻すことができませんので、ご注意ください。

表示範囲の切り替え

表示するアラート情報を、表示中の機器内のブレードのものだけに絞ることができます。アラート情報エリア上部のコンボボックスをクリックし、「表示中コンテンツのみ表示」を選択してください。(「全て表示」状態では、接続中の ConsoleDA Manager の全てのアラート情報を表示します。)

アラート情報の削除

全てのアラート情報をデータベースから削除することができます。メインメニュー「ファイル」→「オプション」を選択し、「アラート情報を全て削除」ボタンをクリックしてください。一度アラート情報を削除しますと復元することができませんので、ご注意ください。

メインメニュー「ファイル」→「オプション」より、どの程度過去のアラート情報まで表示するかを変更することができます。

[4-2 オプション](#)を参照してください。

3-5 ブレード稼働状況グラフ, ブレード使用状況グラフ

接続先全体・設置場所・ラック・シャーシ単位で、ブレードの稼働状況をグラフで見ることができます。

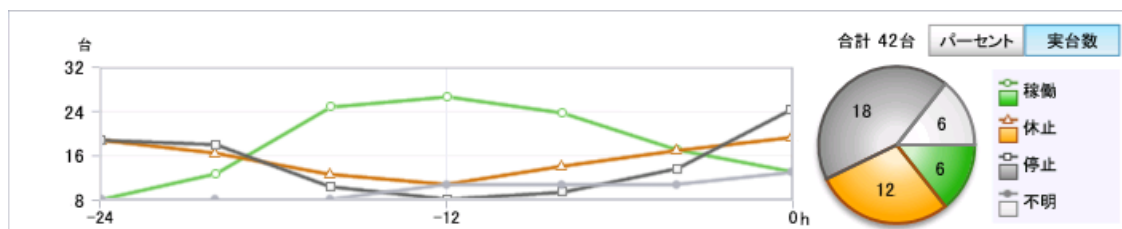
タブによって表示するグラフの種類を切り替えます。グラフの種類には以下の2つがあります。

ブレード稼働状況 グラフ

電源状態(「稼働」・「休止」・「停止」・「不明」)ごとに、対象機器内のブレード数を集計し表示します。

ブレード使用状況 グラフ

対象機器内の「稼働」および「休止」状態のブレードの中で、ユーザーのログオン状況ごとにブレード数を集計し表示します。



ブレード稼働状況グラフ

- ・円グラフは画面最終更新時の状態を、折れ線グラフは過去からの状態の変化の様子を表しています。
- ・折れ線グラフの横軸の表示期間については、メインメニュー「ファイル」→「オプション」より変更することができます。「オプション」ダイアログについて詳しくは、[4-2 オプション](#) を参照してください。
- ・グラフの数値として 実際のブレード台数 と 全体に対する各状態の割合(%) の2種類を用いることができます。以下の図に示すボタンを用いて切り替えてください。



補足	説明	
	・稼働状況グラフにおいて、各電源状態の示す意味は次の通りです。	
	「稼働」	ブレードの電源が ON の状態
	「休止」	ブレードが「スリープ」「スタンバイ」「休止状態」のいずれかの状態
	「停止」	ブレードの電源が OFF の状態
	「不明」	ブレードの電源情報が取得できない状態
	・使用状況グラフにおいて、各状態の示す意味は次の通りです。	
	「ログオン」	1 ユーザー以上がログオンしているブレード
	「ログオフ」	ログオンしているユーザーがいないブレード
	・ブレードの追加または削除を行った場合、ブレード総数が変わるため、パーセント表示時折れ線グラフの値が全て変化します。	
	・初めて VDC Viewer を使用するときや、ConsoleDA Manager が一定期間以上停止していた場合など、グラフをパーセント表示にすると円グラフが表示される位置に「NaN(非数値)」と表示されることがあります。	

3-6 ブレードの情報

シャーン表示画面においてブレードを選択すると、画面下部「詳細情報エリア」にブレードの情報が表示されます。ブレードの用途によって、表示内容が異なります。

3-6-1 クライアントブレードの情報

クライアント OS がインストールされたブレードについては、以下の項目が表示されます。

「サマリー」タブ

ブレードの状態の概要を表示します。

アラート履歴

これまでにブレードに発生したアラート情報を、時系列順で表示します。



- 表にはそのブレードで発生したアラートの内容が一覧表示されます。
- その下部ではアラートが発生した時点を視覚的に表しています。矩形1つが1時間を示しており、矩形内の数字は、その1時間内に発生したアラートの件数を表しています。「前日」「翌日」ボタンをクリックすると、前後の日付の内容が表示されます。また、中央の日付ボタンをクリックするとカレンダーが表示され、日付を選択することで直接その日の内容を表示することができます。



制限	<p>•ご使用環境によっては、カレンダーの表示月の切り替えがスムーズにできない場合があります。</p> <p>OSの違いのため、◀ ▶ ボタンのクリック判定範囲がずれてしまい、Windows Vista®や Windows Server® 2003 などでは、三角形の外側をクリックする必要があります。</p> <p>また、意図せずカレンダーが閉じてしまった場合、「シャーンアラート情報」タブが選択されていることがありますので、再び「サマリー」タブを選択してください。</p>
補足	<p>•現在時刻よりも先の時間帯については、矩形が表示されません。</p> <p>•アラート一覧を列の内容でソートすることはできません。</p> <p>•カレンダーにおいて、現在より先の日付およびアラート表示期間外の日付は表示されません。</p> <p>表示する日のない月を表示しようとすると、カレンダーが閉じます。</p> <p>(アラート表示期間については、4-2 オプションを参照してください。)</p>

「全般」タブ

ブレードの基本的な情報を表示します。表示される項目は以下の通りです。

(1) 名前	ブレード名を表示します。
(2) モデル バージョン	ブレードのモデルバージョン番号を表示します。 番号とモデルの対応は次の通りです。 0000100410 FLORA bd100 X6 0000100510 FLORA bd500 X7 0000100510 FLORA gd500 X7 0000100610 HA8000-bd/BD10 9999999999 モデルバージョン不明
(3) 設置場所	ブレードを設置している設置場所、ラック、シャーシ名を「¥」で区切りながら連結したフルパスを表示します。
(4) グループ	ブレードが割り当てられているユーザー定義グループのフルパスを表示します。 グループの設定は ConsoleDA UI から行います。
(5) スロット No.	ブレードをインストールしているシャーシのスロット No. を表示します。不明の場合は 255 となります。
(6) 最終更新日	ブレードの情報を更新した最後の日時を表示します。
(7) 電源状態	ブレードの稼働状態を表示します。
(8) CALL ランプ状態	ブレードの CALL ランプの状態を表示します。
(9) STATUS ランプ状態	ブレードの STATUS ランプの状態を表示します。

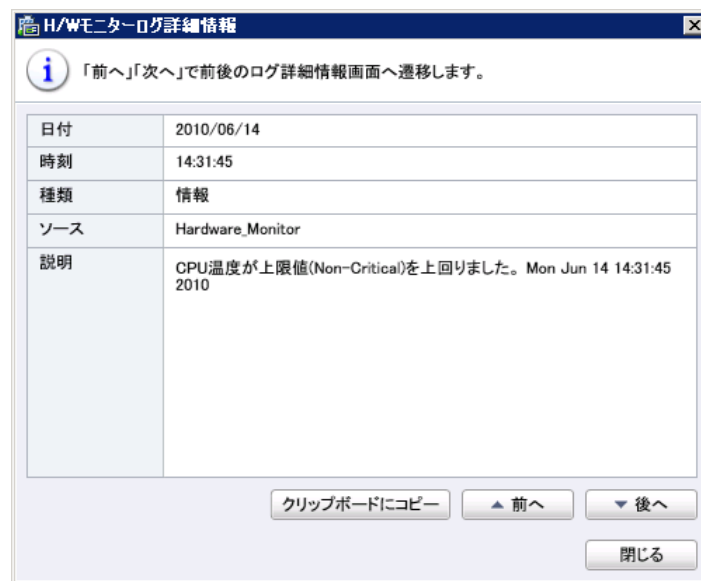
「ネットワーク」タブ

LAN1、LAN2、BMC それぞれの IP アドレス、MAC アドレスを表示します。

補足	・未設定の IP アドレスは 255.255.255.255、未設定の MAC アドレスは FF-FF-FF-FF-FF-FF、未設定のスロット No. は 255 となります。
-----------	---

「H/W モニターログ」タブ

ハードウェアモニターのログを一覧表示します。ログを 1 つ選択し「詳細表示」をクリックするとログの詳細情報を表示します。



「前へ」「後へ」ボタンをクリックすると、一覧表示上で上(または下)のログの詳細情報を表示します。

「クリップボードへコピー」ボタンをクリックすると、表示中の内容がクリップボードにコピーされます。文書編集ソフトなどで「貼り付け」操作を行うとこの内容がテキストで出力されます。

「シャーシアラート情報」タブ

ブレードがインストールされているシャーシの各モジュールの状態を表示します。これによって、クライアントブレードの STATUS ランプが点滅状態の時、その原因がシャーシにあるかどうかを判別できます。

注意	<ul style="list-style-type: none">•FLORA bd100 X6 以前のモデルのブレードでは、ハードウェアアラート情報機能はご使用できません。(全項目「利用不可」と表示されます。)•ハードウェアアラート情報の内容は、各ブレードではなく、シャーシのアラート情報です。そのため、ブレードのログには記録されません。
-----------	--

3-6-2 サーバブレードの情報

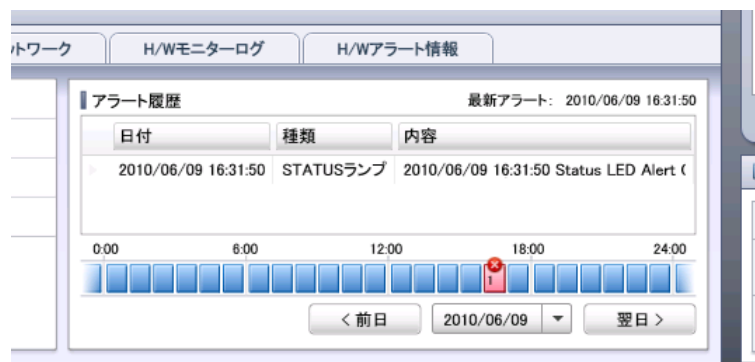
サーバ OS がインストールされたブレードについては、以下の項目が表示されます。

「サマリー」タブ

ブレードの状態の概要を表示します。

アラート履歴

これまでにブレードに発生したアラート情報を、時系列順で表示します。



- 表にはそのブレードで発生したアラートの内容が一覧表示されます。
- その下部ではアラートが発生した時点を視覚的に表しています。矩形1つが1時間を示しており、矩形内の数字は、その1時間内に発生したアラートの件数を表しています。「前日」「翌日」ボタンをクリックすると、前後の日付の内容が表示されます。また、中央の日付ボタンをクリックするとカレンダーが表示され、日付を選択することで直接その日の内容を表示することができます。



制限	<p>・ご使用環境によっては、カレンダーの表示月の切り替えがスムーズにできない場合があります。</p> <p>OSの違いのため、◀ ▶ ボタンのクリック判定範囲がずれてしまい、Windows Vista®や Windows Server® 2003 などでは、三角形の外側をクリックする必要があります。</p> <p>また、意図せずカレンダーが閉じてしまった場合、「シャーシアラート情報」タブが選択されていることがありますので、再び「サマリー」タブを選択してください。</p>
補足	<p>・現在時刻よりも先の時間帯については、矩形が表示されません。</p> <p>・アラート一覧を列の内容でソートすることはできません。</p> <p>・カレンダーにおいて、現在より先の日付およびアラート表示期間外の日付は表示されません。</p> <p>表示する日のない月を表示しようとすると、カレンダーが消えます。</p> <p>(アラート表示期間については、4-2 オプションを参照してください。)</p>

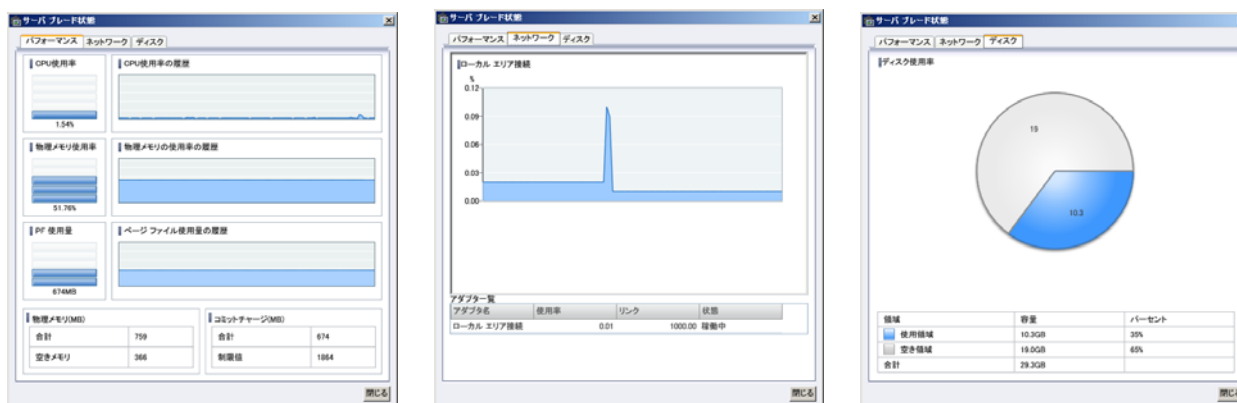
「全般」タブ

ブレードの基本的な情報を表示します。表示される項目は以下の通りです。

(1) 名前	ブレード名を表示します。
(2) モデル バージョン	ブレードのモデルバージョン番号を表示します。 番号とモデルの対応は次の通りです。 0000100410 FLORA bd100 X6 0000100510 FLORA bd500 X7 0000100510 FLORA gd500 X7 0000100610 HA8000-bd/BD10 9999999999 モデルバージョン不明
(3) 設置場所	ブレードを設置している設置場所、ラック、シャーシ名を「¥」で区切りながら連結したフルパスを表示します。
(4) グループ	ブレードが割り当てられているユーザー定義グループのフルパスを表示します。 グループの設定は ConsoleDA UI から行います。
(5) スロット No.	ブレードをインストールしているシャーシのスロット No を表示します。不明の場合は 255 となります。
(6) 最終更新日	ブレードの情報を更新した最後の日時を表示します。
(7) 電源状態	ブレードの稼働状態を表示します。
(8) CALL ランプ状態	ブレードの CALL ランプの状態を表示します。
(9) STATUS ランプ状態	ブレードの STATUS ランプの状態を表示します。

「サーバブレード状態」画面(リソースモニター)

サーバブレードの場合、「現在の状態を表示」ボタンをクリックすると CPU 使用率、メモリ使用率、ネットワーク使用率、ハードディスク使用率 の現在の状態を表示することができます。



注意	・ConsoleDA UI がインストールされたマシンにファイアウォールが設定されている場合、ConsoleDA UI をファイアウォールの例外プログラムに設定してください。設定されない場合、現在の状態が表示されません。
-----------	--

「ネットワーク」タブ

LAN1、LAN2、BMC それぞれの IP アドレス、MAC アドレスを表示します。

補足	・未設定の IP アドレスは 255.255.255.255、未設定の MAC アドレスは FF-FF-FF-FF-FF-FF、未設定のポート No. は 255 となります。
-----------	--

「サービス」タブ

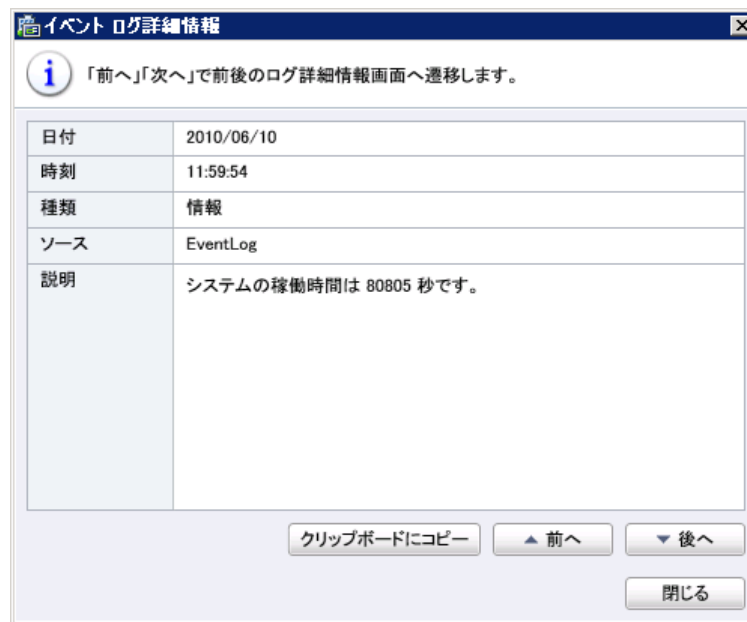
ブレードのサービスを一覧表示します。



補足	・ここでは表示のみで、各サービスの開始・停止やプロパティの表示などはできません。
-----------	--

「イベントログ」タブ

ブレードのイベントログを一覧表示します。ログを 1 つ選択し「詳細表示」をクリックするとログの詳細情報を表示します。



「前へ」「後へ」ボタンをクリックすると、一覧表示上で上(または下)のログの詳細情報を表示します。

「クリップボードへコピー」ボタンをクリックすると、表示中の内容がクリップボードにコピーされます。文書編集ソフトなどで「貼り付け」操作を行うとコピーした内容がテキストで出力されます。

「シャーシアラート情報」タブ

ブレードがインストールされているシャーシの各モジュールの状態を表示します。これによって、サーバブレードの STATUS ランプが点滅状態の時、その原因がシャーシにあるかどうかを判別できます。

注意	•FLORA bd100 X6 以前のモデルのブレードでは、ハードウェアアラート情報機能はご使用できません。(全項目「利用不可」と表示されます。)。 •ハードウェアアラート情報の内容は、各ブレードではなく、シャーシのアラート情報です。そのため、ブレードのログには記録されません。
-----------	--

3-7 状態通知レポート

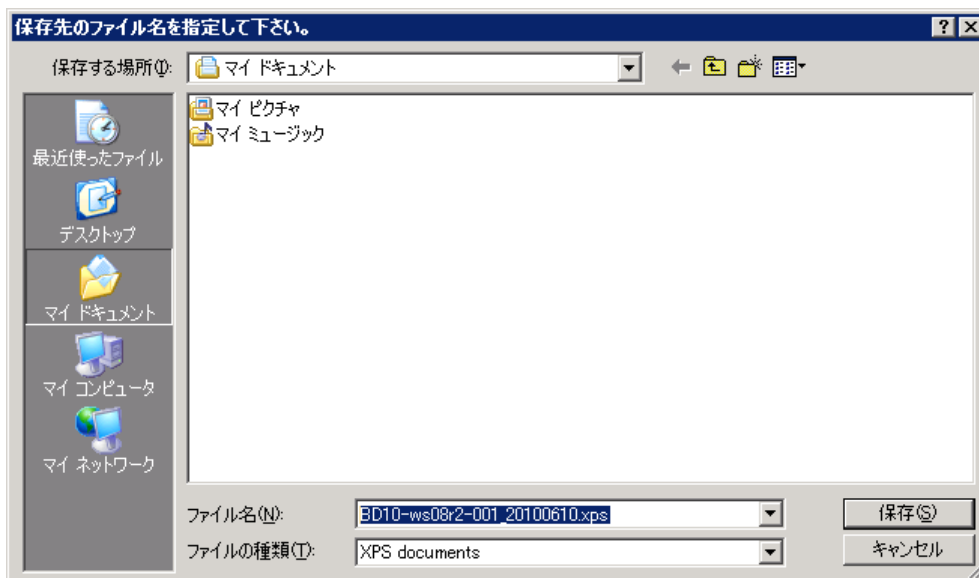
ブレードの情報をレポートにまとめ、ファイル出力することができます。

・状態通知レポートを出力するには、次のように操作します。

1. シヤーン表示画面にて、レポートを出力するブレードを1つ選択します。
2. コンテンツエリア・アクション「状態通知レポート」をクリックします。



3. 出力するファイルの名前と保存先を決定し、ファイルを保存します。ファイル名はデフォルトで「[マシン名][作成年月日].xps」となっています。



状態通知レポートには、選択したブレードの位置情報、サマリー、全般、ネットワーク、ハードウェアモニターログ、アラート履歴 情報が含まれています。

注意	・状態通知レポートはXPS形式で出力されます。XPSファイルはWindows Vista®より前のWindows®では表示できないことがあります。詳しくはMicrosoft®のWebページなどを参照してください。
-----------	--

3-8 ブレードの利用履歴表示

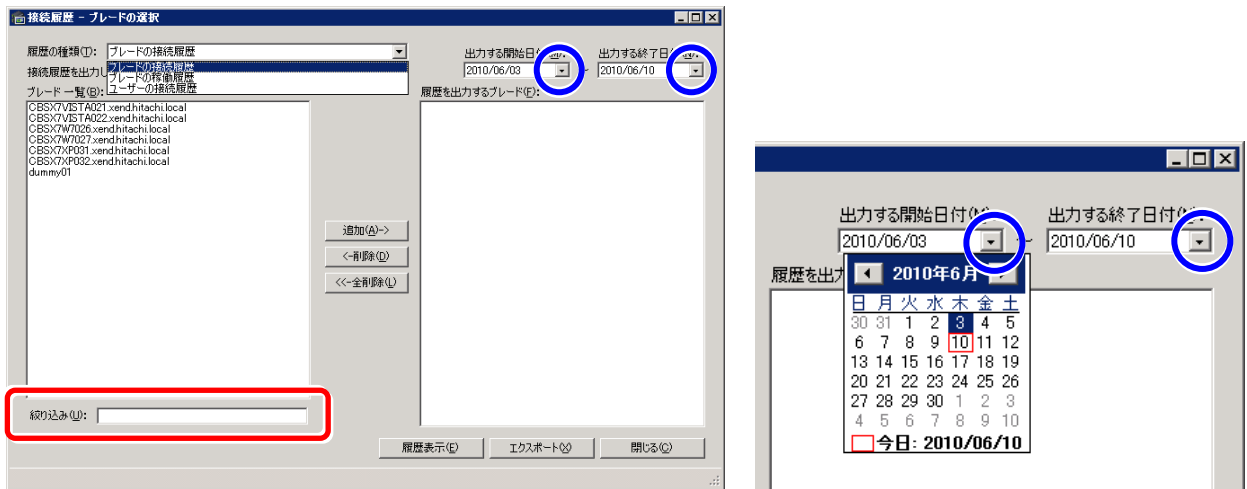
3-8-1 ブレードの接続履歴

・ブレードの接続履歴を表示するには、次のように操作します。

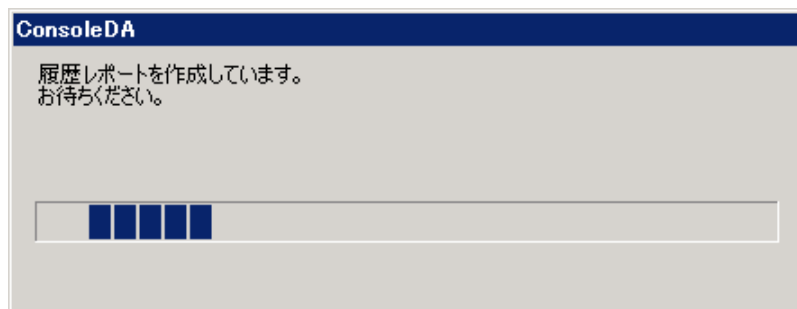
1. コンテンツエリア・アクションまたはメインメニュー「表示」から、「履歴の表示」をクリックしてください。
(データベースに登録されているブレードが多数の場合、選択画面が表示されるまで数秒かかることがあります。)



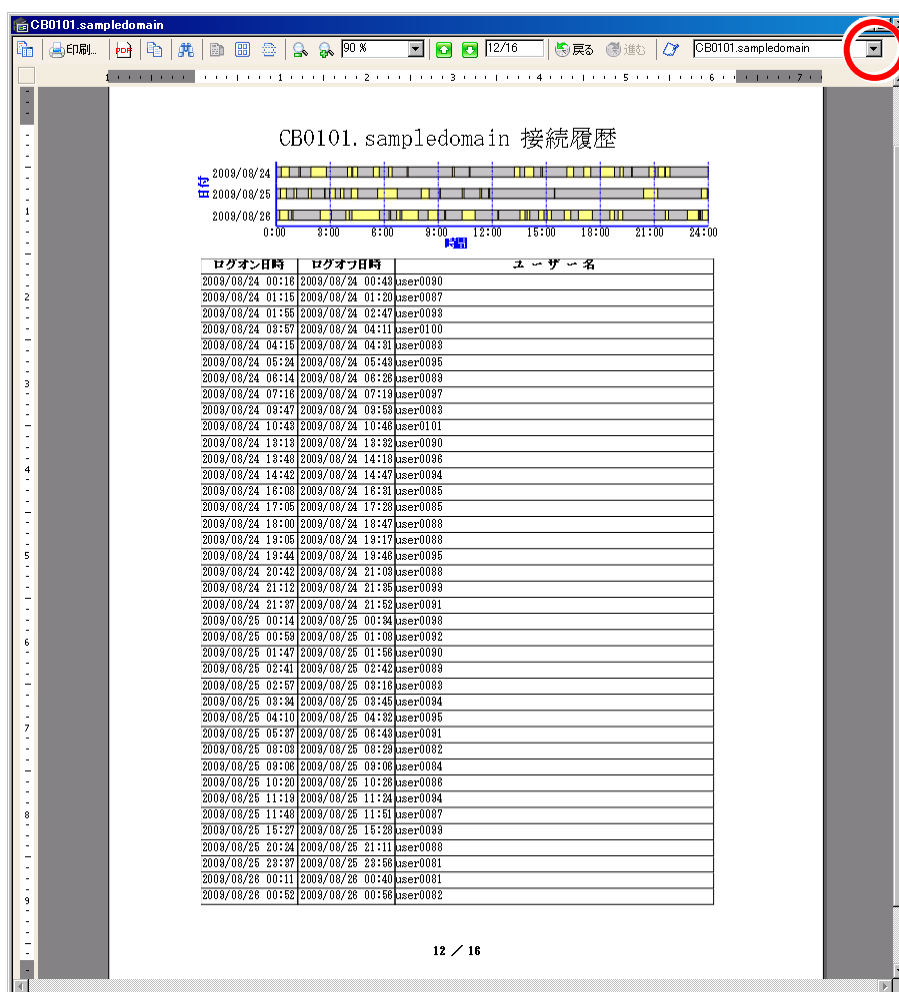
2. 選択画面が表示されましたら、まず表示する履歴の種類として「ブレードの接続履歴」を選択します。
次に履歴を表示したいブレードおよび期間を設定します。画面左下部の「絞り込み」欄(赤枠部分)に文字列を入力すると、その文字列を含むブレード名の一覧表示を絞り込むことができます。また、画面右上部の[▼] (青枠部分)をクリックするとカレンダーが表示され、ここから開始日付と終了日付を選択することで期間が設定できます。設定が完了しましたら「履歴表示」ボタンをクリックしてください。



3. 処理が完了するまで、次のような進行ダイアログが表示されます。



4. ブレードの接続履歴レポートが表示されます。グラフの黄色部分はログオン状態、灰色部分はログオフ状態をそれぞれ示しています。ブレードを複数選択した場合、画面右上部の[▼] (赤枠部分)をクリックしてブレードを選択すると、表示を切り替えることができます。



注意	<ul style="list-style-type: none"> 日付を選択できる範囲は最大2年間(731日間)までです。 履歴を表示するブレードを選択できる数は最大250までです。 ユーザーがログオン中にブレードが休止やスタンバイ状態に移行した場合も、ログオン状態として記録されます。
補足	<ul style="list-style-type: none"> ブレード選択画面において、「VDC Viewer」で扱うことのできない「既定の設置場所」以下に配置されているブレード名も一覧に表示されます。 ブレード選択画面の「絞り込み」欄に入力したアルファベットは、大文字・小文字が区別されます。

3-8-2 ブレードの稼働履歴

・ブレードの稼働履歴を表示するには、次のように操作します。

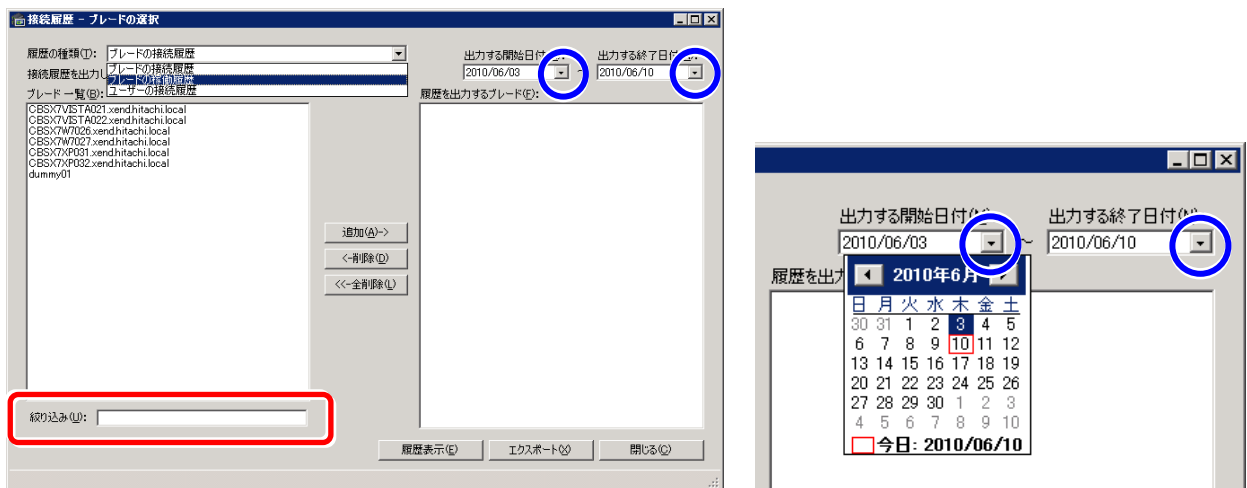
1. コンテンツエリア・アクションまたはメインメニュー「表示」から、「履歴の表示」をクリックしてください。

(データベースに登録されているブレードが多数の場合、選択画面が表示されるまで数秒かかることがあります。)

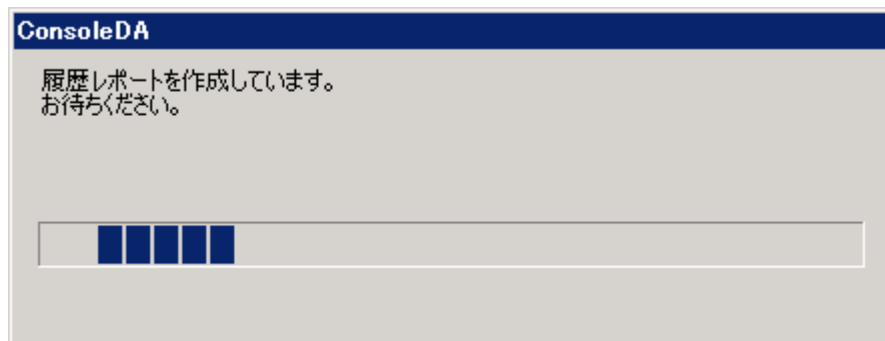


2. 選択画面が表示されましたら、まず表示する履歴の種類として「ブレードの稼働履歴」を選択します。

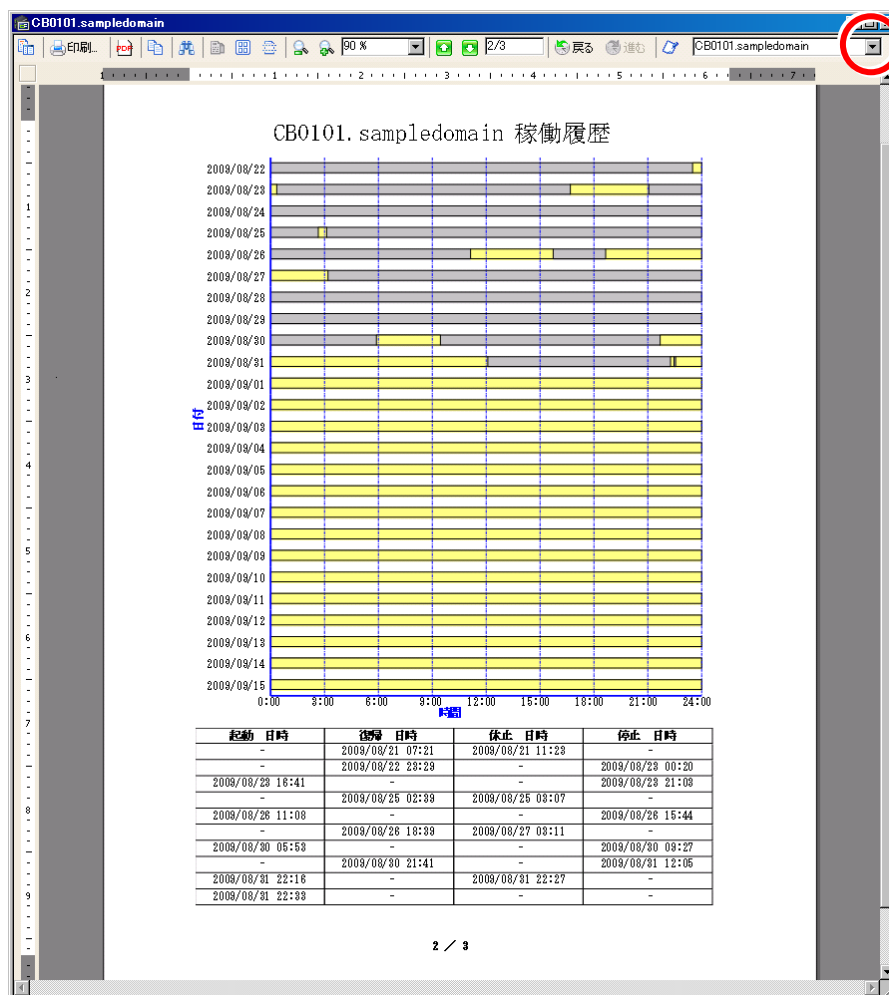
次に履歴を表示したいブレードおよび期間を設定します。画面左下部の「絞り込み」欄(赤枠部分)に文字列を入力すると、その文字列を含むブレード名の一覧表示を絞り込むことができます。また、画面右上部の[▼] (青枠部分)をクリックするとカレンダーが表示され、ここから開始日付と終了日付を選択することで期間が設定できます。設定が完了したら「履歴表示」をクリックしてください。



3. 処理が完了するまで、次のような進行ダイアログが表示されます。



4. ブレードの稼働履歴レポートが表示されます。グラフの黄色部分は稼働状態、灰色部分は休止または停止状態をそれぞれ示しています。ブレードを複数選択した場合、画面右上部の[▼] (赤枠部分)をクリックしてブレードを選択すると、表示を切り替えることができます。



注意	<ul style="list-style-type: none"> ・日付を選択できる範囲は最大2年間(731日間)までです。 ・履歴を表示するブレードを選択できる数は最大250までです。
補足	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレード選択画面において、「VDC Viewer」で扱うことのできない「既定の設置場所」以下に配置されているブレード名も一覧に表示されます。 ・ブレード選択画面の「絞り込み」欄に入力したアルファベットは、大文字・小文字が区別されます。

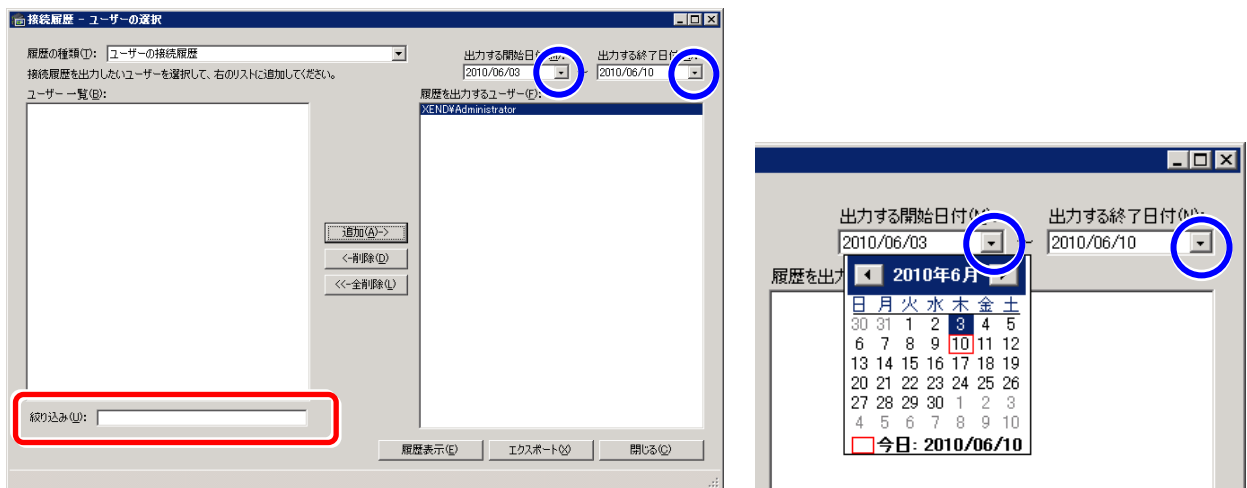
3-8-3 ユーザーの接続履歴

・ユーザーの接続履歴を表示するには、次のように操作します。

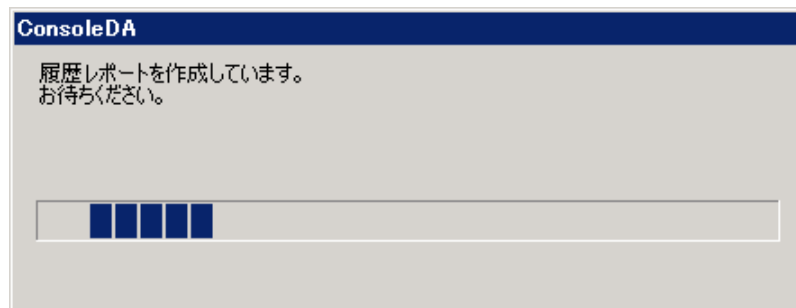
1. コンテンツエリア・アクションまたはメインメニュー「表示」から、「履歴の表示」をクリックしてください。
(データベースに登録されているユーザーが多数の場合、選択画面が表示されるまで数秒かかることがあります。)



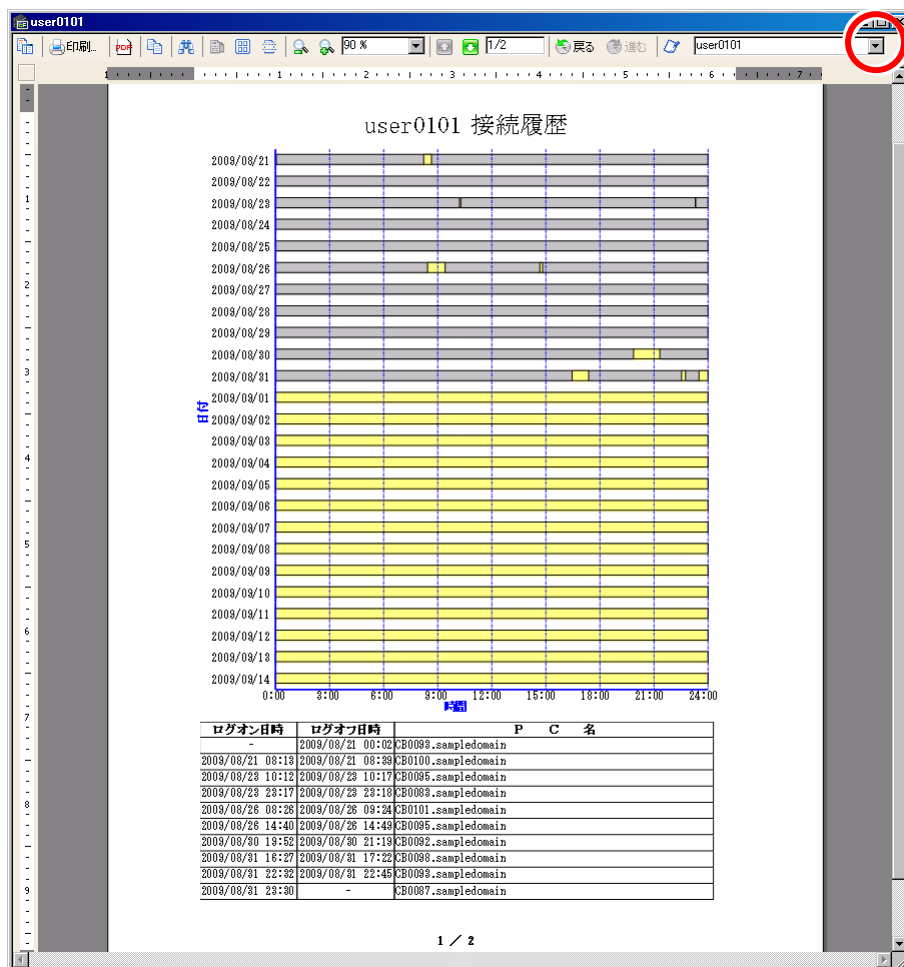
2. 選択画面が表示されましたら、まず表示する履歴の種類として「ユーザーの接続履歴」を選択します。
次に履歴を表示したいユーザーおよび期間を設定します。画面左下部の「絞り込み」欄(赤枠部分)に文字列を入力すると、その文字列を含むユーザー名の一覧表示を絞り込むことができます。また、画面右上部の[▼] (青枠部分)をクリックするとカレンダーが表示され、ここから開始日付と終了日付を選択することで期間が設定できます。設定が完了しましたら「履歴表示」をクリックしてください。



3. 処理が完了するまで、次のような進行ダイアログが表示されます。



4. ユーザーの接続履歴レポートが表示されます。グラフの黄色部分はログオン状態、灰色部分はログオフ状態をそれぞれ示しています。ユーザーを複数選択した場合、画面右上部の[▼] (赤枠部分)をクリックしてユーザーを選択すると、表示を切り替えることができます。



注意	<ul style="list-style-type: none"> ・日付を選択できる範囲は最大2年間(731日間)までです。 ・履歴を表示するユーザーを選択できる数は最大250までです。 ・ユーザーがログオン中にブレードが休止やスタンバイ状態に移行した場合も、ログオン状態として記録されます。
補足	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザー選択画面において、「VDC Viewer」で扱うことのできない「既定の設置場所」以下に配置されているブレードのユーザー名も一覧に表示されます。 ・ブレード選択画面の「絞り込み」欄に入力したアルファベットは、大文字・小文字が区別されます。

3-8-4 履歴データのエクスポート

ブレードの利用履歴データを、CSV形式でファイルに出力することができます。

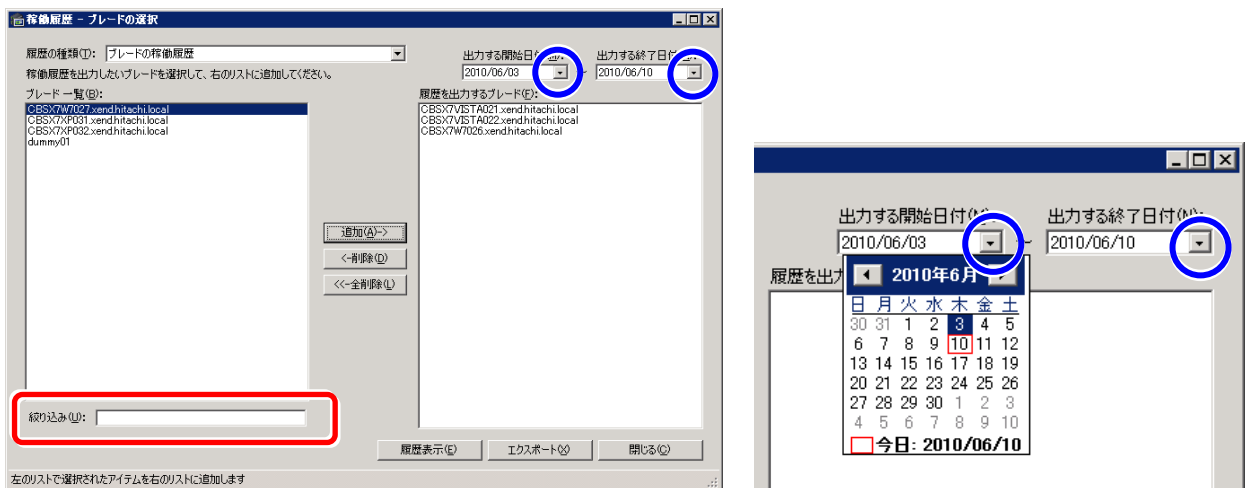
履歴データをファイル出力するには、次のように操作します。

1. コンテンツエリア・アクションまたはメインメニュー「表示」から、「履歴の表示」をクリックしてください。
(データベースに登録されているユーザーが多数の場合、選択画面が表示されるまで数秒かかることがあります。)

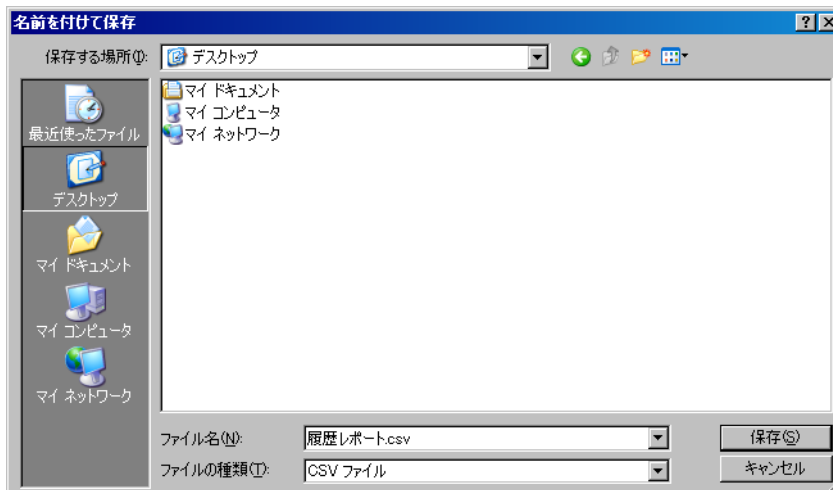


2. 選択画面が表示されましたら、エクスポートする履歴の種類を選択します。

次に履歴データを出力したいブレードまたはユーザー、および期間を設定します。画面左下部の「絞り込み」欄(赤枠部分)に文字列を入力すると、その文字列を含むブレードまたはユーザー名の一覧表示を絞り込むことができます。また、画面右上部の「▼」(青枠部分)をクリックするとカレンダーが表示され、ここから開始日付と終了日付を選択することで期間が設定できます。設定が完了しましたら「エクスポート」をクリックしてください。



3. ファイルを出力する場所とファイル名を入力し、「保存」ボタンをクリックしてください。



以下、出力される CSV ファイルのフォーマット形式です。

```
REGIST_DATE, PC_NAME, USER_NAME, EVENT_ID, EVENT_NAME
2010/10/11 9:19:18, HITACHI16, HITACHI16¥Admin, 201, ログオン
2010/10/11 9:19:20, HITACHI16, HITACHI16¥Admin, 202, ログオフ
...
```

カラム列数	カラム名	説明
1	REGIST_DATE	イベントの日時
2	PC_NAME	ブレード名
3	USER_NAME	ユーザー名
4	EVENT_ID	イベント ID
5	EVENT_NAME	イベント ID に対応するイベント名 <ul style="list-style-type: none"> ・ ログオン ・ ログオフ ・ 起動 ・ 停止 ・ 休止 ・ 復帰

注意	<ul style="list-style-type: none"> ・日付を選択できる範囲は最大 2 年間 (731 日間) までです。 ・履歴を表示するブレードまたはユーザーを選択できる数は最大 250 までです。 ・ユーザーがログオン中にブレードが休止やスタンバイ状態に移行した場合も、ログオン状態として記録されます。
補足	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレードまたはユーザー選択画面において、「VDC Viewer」で扱うことのできない「既定の設置場所」以下に配置されているブレードおよびそのユーザー名も一覧に表示されます。

3-9 電源制御

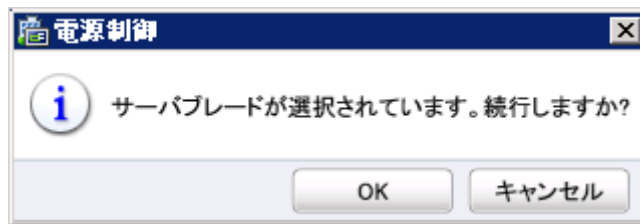
ブレードの電源を遠隔制御することができます。

・電源の制御を行うには、次のように操作します。

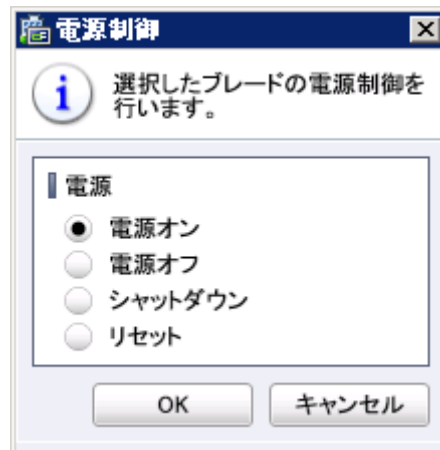
1. 制御を行う機器を選択してください。（「Ctrl」キーを押しながらクリックすることで複数選択も可能です。）
2. コンテンツエリア・アクション「電源制御」またはメインメニュー「操作」から「電源制御」をクリックしてください。



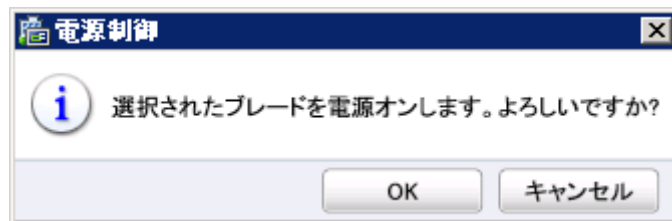
3. ここで、選択した機器にサーバブレードが含まれている場合、確認メッセージが表示されますので、「OK」をクリックしてください。



4. 行いたい制御を選択し、「OK」をクリックしてください。



5. 確認ダイアログが表示されますので、「OK」をクリックしてください。



6. 電源制御進行ダイアログが表示され、制御が完了すると消えます。



注意	<ul style="list-style-type: none"> 対象ブレードの BMC の IP アドレスが未登録の場合、代替アドレスとして IP アドレス 1 が使用されます。
補足	<ul style="list-style-type: none"> 電源制御は、設置場所、ラック、シャーシ、ブレード単位で行うことができます。 各操作の処理内容は次の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> 「電源オン」 電源を入れます。または、休止状態から復帰します。 「電源オフ」 強制的に電源を切ります。 「シャットダウン」 シャットダウン処理を行います。 「リセット」 強制的に電源をオフ、オンします。 OS の状態によっては、「シャットダウン」制御ができない場合があります。 完了メッセージは、「ConsoleDA Manager」からブレードへの操作が完了したことを示します。制御がブレードに反映されたことを保証するものではありません。

3-10 CALLランプ制御

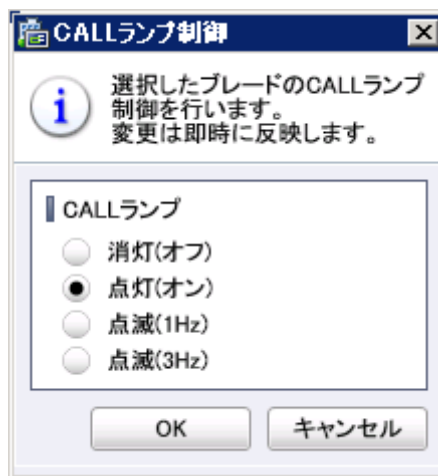
CALL ランプの状態を遠隔制御することができます。

・CALLランプの制御を行うには、次のように操作します。

1. 制御を行う機器を選択してください。（「Ctrl」キーを押しながらクリックすることで複数選択も可能です。）
2. コンテンツエリア・アクション「CALL ランプ制御」またはメインメニュー「操作」から「CALL ランプ制御」をクリックしてください。



3. 設定したい CALL ランプの状態を選択し、「OK」をクリックしてください。



4. CALL ランプ制御進行ダイアログが表示され、制御が完了すると消えます。



注意	・対象ブレードの BMC の IP アドレスが未登録の場合、代替アドレスとして IP アドレス 1 が使用されます。
補足	・CALL ランプの制御は、設置場所、ラック、シャーシ、ブレード単位で行うことができます。 ・完了メッセージは、「ConsoleDA Manager」からブレードへの操作が完了したことを示します。制御がブレードに反映されたことを保証するものではありません。

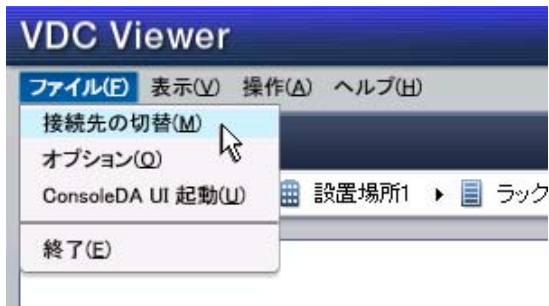
4 VDC Viewerの環境設定

4-1 接続先の切り替え

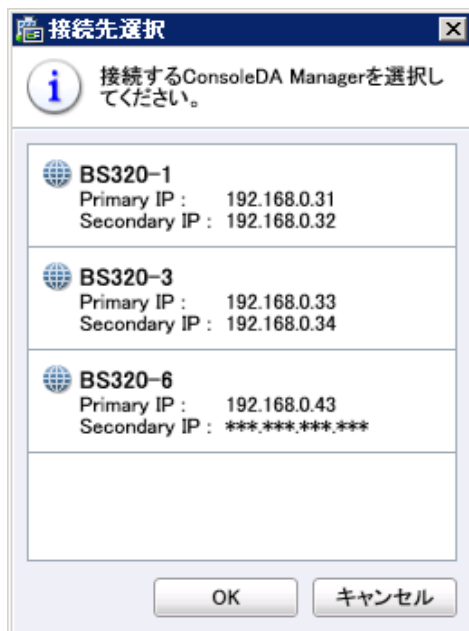
接続する ConsoleDA Manager を切り替えます。

・接続先を切り替えるには、次のように操作します。

1. メインメニューの「ファイル」から、「接続先の切替」を選択してください。



2. 接続したい ConsoleDA Manager を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。

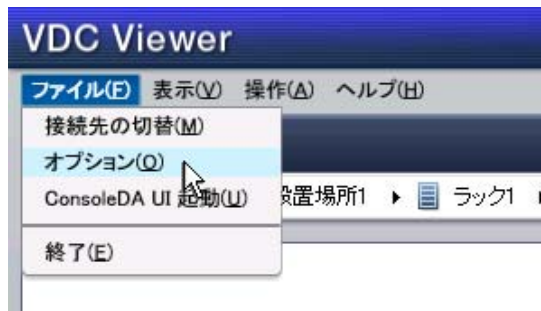


補足	・クラムトレイルの左端にある▶ボタンからも接続先を切り替えることができます。
注意	・接続に失敗した場合、メッセージが表示され、画面が読み込み中のままになります。このような場合は、メインメニューまたはクラムトレイル左端の▶ボタンから再度「接続先の切替:」を選択し、別の接続先に切り替えてください。切り替える接続先がない場合は、「VDC Viewer」を終了し、「ConsoleDA UI」にて有効な接続先を設定してください。

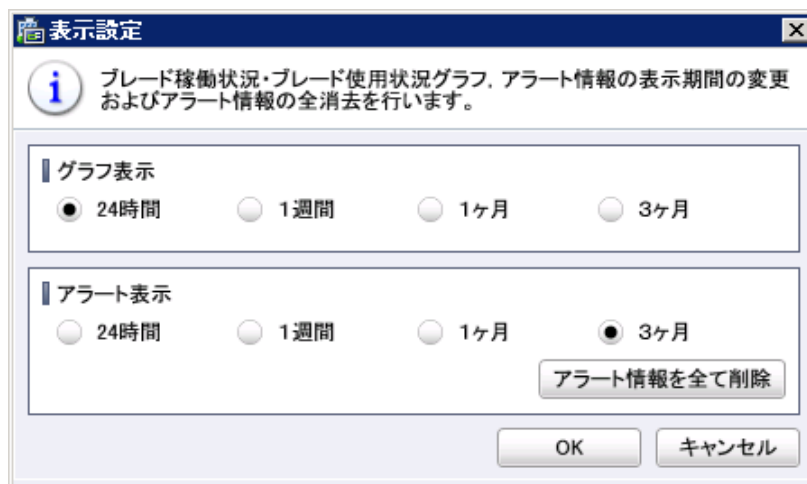
4-2 オプション

・グラフ、アラートの表示期間設定、およびアラート情報の全削除を行います。

1. メインメニュー「ファイル」から、「オプション」をクリックしてください。



2. それぞれ設定したい期間を選択し、「OK」をクリックしてください。



各設定が反映される箇所は、以下の通りです。

グラフ表示

ブレード稼働状況・ブレード使用状況 折れ線グラフ 横軸(時間軸)

アラート表示

コンテンツエリア (アイコン)

アラート情報

サマリー情報(エラーログ, STATUS ランプ)

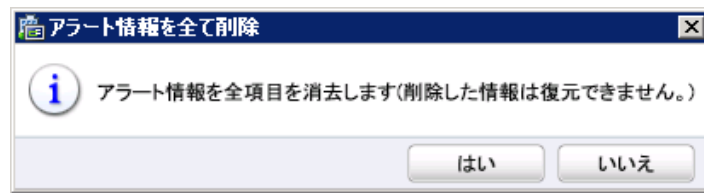
ブレード詳細情報・サマリー(エラーログ, STATUS ランプ)

ブレード詳細情報・アラート履歴

・アラート情報全削除

アラート情報エリア、およびブレードのアラート履歴に表示される全てのアラート情報を、データベースから削除します。

オプション画面右下の「アラート情報を全て削除」ボタンをクリックしてください。確認メッセージが表示されますので、よろしければ「はい」をクリックしてください。



注意	・アラート情報全削除を一度行くと、元に戻すことができません。よく確認してから実行してください。
-----------	---

5 困ったときは

No	現象	原因	対策
①	CALL ランプの制御を行うと「CALL ランプの制御に失敗しました。」というエラーが表示された。	回線が接続されていない可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 各機器の接続を確認してください。
②	画面が読み込み中表示のまま変化しなくなった。	「ConsoleDA Manager」への接続に失敗したためです。	<ul style="list-style-type: none"> メインメニューまたはクラムトレイルより接続先の切り替えを行うか、「VDC Viewer」を終了し、「ConsoleDA UI」にて接続先の設定を行ってください。
③	「接続先[接続先名]に接続できませんでした。または、通信処理中にエラーが発生しました。」というエラーが表示された。	「ConsoleDA Manager」の IP アドレスが間違っている可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 「ConsoleDA Manager」がインストールされているサーバの IP アドレスを確認してください。
		「ConsoleDA Manager」が起動していない可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 「ConsoleDA Manager」のサービスを起動してください。 確認方法: 管理サーバの「コントロールパネル」の「管理ツール」から「サービス」を開き、「ConsoleDA Manager」の状態が「開始」になっているか確認してください。 「開始」状態になっていない場合は「ConsoleDA Manager」を右クリックして「開始」を選択してください。
		回線が繋がっていない可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 回線を確認してください。
④	「ConsoleDA Manager」をインストールしたサーバの IP アドレスを変更したら、接続できなくなった。	「VDC Viewer」が「ConsoleDA Manager」に接続できなくなったためです。	<ul style="list-style-type: none"> 接続先を再設定する必要があります。「ConsoleDA UI」を使用して再設定してください。
⑤	「ConsoleDA Manager」をインストールしたサーバの IP アドレスを変更したら、ブレードの電源状態が変更されなくなった。	「ConsoleDA Agent」が「ConsoleDA Manager」に接続できなくなったためです。	<ul style="list-style-type: none"> ブレードの「ConsoleDA Agent」のインストール先にある設定ファイルを編集して「ConsoleDA Agent」のサービスを再起動してください。 設定ファイルについてはセットアップ手順書を参照してください。

No	現象	原因	対策
⑥	「VDC Viewer」が起動しなくなった。	設定ファイルが正しくない可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 「VDC Viewer」のユーザー設定保存ファイル(user.config ファイル)を削除します。 (user.config ファイルの場所) Windows® XP/Windows Server® 2003/Windows Server® 2003 R2 の場合: C:\Documents and Settings¥(ユーザーアカウント名)\Local Settings¥Application Data¥Hitachi,Ltd¥VDC_Viewer.exe Uri_xxxx¥1.0.0.0 Windows Vista®/Windows® 7 の場合: C:\Users¥(ユーザーアカウント名)\AppData¥Local¥Hitachi,Ltd¥VDC_Viewer.exe Uri_xxxx¥1.0.0.0
		「ConsoleDA Manager」が起動していない可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 「ConsoleDA Manager」を起動してください。 確認方法:管理サーバの「コントロールパネル」の「管理ツール」から「サービス」を開き、「ConsoleDA Manager」の状態が「開始」になっているか確認してください。「開始」状態になっていない場合は「ConsoleDA Manager」を右クリックして「開始」を選択してください。
		「SQL Server®」が起動していない可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 「SQL Server®」を起動してください。 確認方法:管理サーバの「コントロールパネル」の「管理ツール」から「サービス」を開き、「SQL Server®」の状態が「開始」になっているか確認してください。「開始」状態になっていない場合は「SQL Server®」を右クリックして「開始」を選択してください。
⑦	管理サーバの「ConsoleDA」イベントログに同じエラーログが連続して多数記録されていた。	各ブレードにアクセスごとのエラーが記録される可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、イベントビューアの設定にてログサイズを変更してください。 または、ログ出力をオフに設定してください。設定ファイルについてはセットアップ手順書を参照してください。
⑧	サーバブレード管理画面、イベントログ、サービスが表示できない。	IP アドレス 1 の値が正しく設定されていないためです。	<ul style="list-style-type: none"> 「ConsoleDA UI」を使用して、IP アドレス 1 に適切な値を持つブレードを作成してください。

No	現象	原因	対策
		<p>「ConsoleDA Agent For Server」がファイアウォールの例外に設定されていない可能性があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ブレードで次の操作を行ってください。 1.コントロールパネルから「Windows ファイアウォール」画面を開く。 2.「例外」に「ConsoleDA Agent For Sever」インストールフォルダーの「Agent2.exe」を追加する。(Windows Server® 2003/Windows Server® 2003 R2 の場合の操作)
		<p>サーバブレードの現在の状態画面(パフォーマンス、ネットワーク、ディスク)だけが表示されない場合、「VDC Viewer」がファイアウォールの例外に設定されていない可能性があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「ConsoleDA UI」インストールマシンで次の操作を行ってください。 1.コントロールパネルから「Windows ファイアウォール」画面を開く。 2.「例外」に「VDC Viewer」を追加する。(Windows® XP/Windows Server® 2003/ Windows Server® 2003 R2 の場合の操作)

6 制限事項

1. 「VDC Viewer」は、画面サイズが 1024×768 以上の環境でご使用ください。
2. 「ConsoleDA UI」を複数の PC・サーバにインストールしてお使いいただく場合、複数のマシンで同時に使用しないでください。
3. 「ConsoleDA UI」の設置場所別表示における「既定の設置場所」以下に配置されている全てのブレードは、「VDC Viewer」では扱うことができません。
4. Citrix® XenDesktop®環境でブレードを統合管理する場合、ブレードが休止状態になっていても、「VDC Viewer」上で表示されるブレードの電源状態は「停止中」と表示されます。
5. アラート情報エリアにおいて一度「解決済み」状態にした項目は、元に戻すことはできません。
6. フロア画像として用いる画像ファイルには、解像度が 96dpi のものをご使用ください。

7 付録

メインメニュー

No	表記	説明	参照先
①	ファイル (F)	接続先の切替(M)	接続先の切り替えを行います。 4-1 接続先の切り替え
		オプション(O)	詳細情報に表示するグラフデータの集計期間、およびサマリー情報に表示するエラー件数の集計期間を変更します。 4-2 オプション
		ConsoleDA UI 起動(U)	「ConsoleDA UI」を起動します。 ConsoleDA UI 操作マニュアル
		終了(E)	「VDC Viewer」を終了します。
②	表示(V)	状態通知レポート(P)	状態通知レポートの出力を行います。 3-7 状態通知レポート
		履歴の表示(C)	を起動します。 3-8 ブレードの利用履歴表示
		H/Wモニターログ詳細表示(L)	ハードウェアモニターログを詳細表示します。 (クライアントブレードに対してのみ) 3-6-1 クライアントブレードの情報
		現在の状態を表示(S)	CPU 使用率・メモリ使用率・ネットワーク使用率・ディスク使用率をグラフ表示します。(サーバブレードに対してのみ) 3-6-2 サーバブレードの情報
		イベントログ詳細表示(E)	イベントログを詳細表示します。 (サーバブレードに対してのみ) 3-6-2 サーバブレードの情報
		最新の情報に更新(R)[F5]	「ConsoleDA Manager」にアクセスして、画面の表示内容を最新のものに更新します。 「F5」キーを押しても実行できます。
③	操作(A)	[下位階層名]情報を開く(D)	下位階層表示画面へ遷移します。
		電源制御(P)	電源制御を行います。 3-9 電源制御
		CALLランプ制御(C)	CALL ランプの制御を行います。 3-10 CALLランプ制御
④	ヘルプ(H)	バージョン情報(A)	「VDC Viewer」のバージョン情報を表示します。